

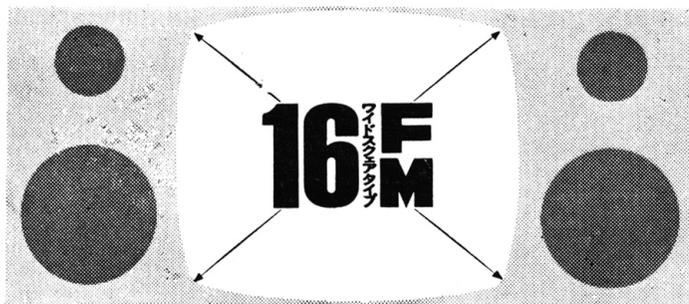
住みよい地域社会に 豊かな生活文化をつくろう

第11回福岡県公民館大会資料



と き ・ 昭和38年5月25日・26日
と ころ ・ 北九州市戸畑文化ホール

福岡県公民館連絡協議会
福岡県教育委員会
北九州市教育委員会



FM  ステレオ



ワイドで見たあと FMをきく……

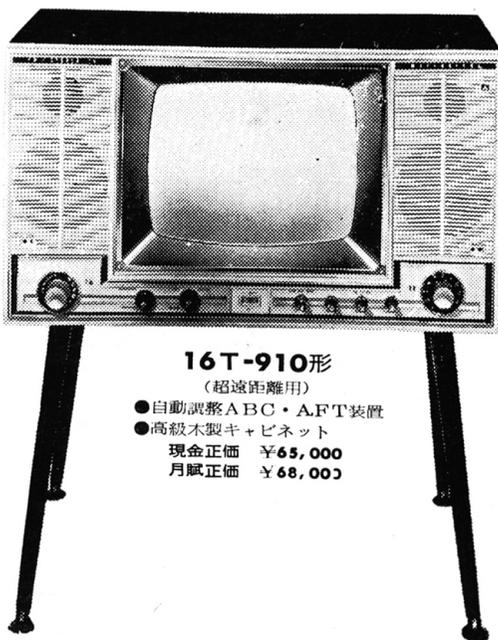
●FMやステレオ演奏も楽しめる FM全国放送をまじかに迎えていち早く FM放送受信装置=FMチューナを備えました またステレオ用としてとくに2つのアンプを組み込みました FMもステレオも 奥行きと広がりのあるダイナミックな演奏が楽しめます

●広がりを加えたハイファイ音 高音専用と中低音専用の丸形スピーカを各2コずつ…計4コを画面の両側に配した本格的4スピーカーシステム 鮮明な画面に高忠実度の再生音を生む三菱ダイヤトーンスピーカの迫力が加わってテレビの楽しさが倍増します

●すべてを自動調整する電子頭脳 三菱独特の精密な電子装置・AFT(自動画質調整)とABC(自動輝度調整)さらにするどい感度を誇る最新形真空管HHシリーズ管が いつも安定した画面をビシヤリと映しだします

16T-910形 現金正価 ¥65,000
月賦正価 ¥68,000

三菱テレビ



16T-910形
(超遠距離用)

- 自動調整ABC・AFT装置
 - 高級木製キャビネット
- 現金正価 ¥65,000
月賦正価 ¥68,000

みんなで歌を 歌いましょう

公民館の歌 (自由の朝)

(全国公民館連絡協議会制定)

♩ = 104 下 統 純 - 作 曲

へいおの はるに あたらしく
 きょうとを おにき ようこらも こうみんかんの
 つどいからと けあうこころなごやーか
 に しゅうのあそをかたえよう

2. 心の花の におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう
3. 働くものの やすらかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日の力 そだてよう

全国の学校で使われるオルガンの

95%がヤマハです

普及オルガンならヤマハです。この高い普及率がヤマハの優秀性を証明しています。

日本楽器九州支店 福岡市上店屋町 3-1



20S型 ¥33,000

音楽の夢をはぐくむ

ヤマハミュージックプラン

詳細はヤマハ特約店にお問合せ下さい。

若い日本

明るく ♩ = 116

作詞 橋本竹茂
 編作 西條八十
 作曲 飯田三郎

1. にほんはいつでもわがいのだ くがさくらの
 2. にほんはいつでもすすむのだ くがひきほく
 3. にほんはおおきくのびるきだ たまにあらしに

はなはらば ひとりひとりが はなびらたど かがやく ほこりを
 しまはらば ひとりひとりが ようがんだ もえたつ いーきと
 おれたとて わかいゆがでる えだがある がつちり くーんで

もてい る けだか いらせ うを もてい る
 じょうねつ で せいきをこーえて すきむの た
 どうどう と せかいのうーえに のびるの た

さこうさこうよ さきとおせ にほんよ にほんよ われらのにほん
 もえろもえろよ もえろのた にほんよ にほんよ われらのにほん
 のびろのびろよ のびとおせ にほんよ にほんよ われらのにほん

一、東京オリンピックの歌
この日のために

鈴木義夫 作詞
 福井文彦 作曲

一、この日のために みがいた披と
 この日のために きたえたからだ
 聖火のもとに 悔いなく燃う
 いのちかがやく 若人われら
 感激の 類くないに

(繰返し) いま楽し 東京オリンピック
 オリンピック 歌え

二、この日のために そそいだ熱と
 この日のために そだてた力
 五輪の旗を かざしてここに
 集うよろこび 若人われら
 堂々の 屈さやかに

三、この日のために たかめた意気と
 この日のために はげんだ心
 大地に水に 惜しまず示す
 栄えの姿よ 若人われら
 待望の 楽の音高く

四、この日のために かさねた夢と
 この日のために つづけた誓い
 世界のよしみ 楽しく交す
 のぞめあふれる 若人われら
 友情の 菊かおる日よ

音楽

わたくし達は昔から、音楽はむずかしいものだと思ってまいりました。これは、わたくし達の社会環境や家庭生活に音楽的な要素が極めて乏しく、その必要性が充分認識されていないながらも、適切な基盤がなく、音楽を本当に身につけた人が少なかった為だと思えます。

西洋では、宗教音楽の影響をうけて、ほとんどの人が幼い頃から音楽に親しみ、豊かな明るい生活を楽しんできております。

音楽を正しく身につけるには社会環境がもっとも大切であります。年令に応じた指導の方法が必要ですがその教育の場として公民館、幼稚園、小学校等があります。

幼稚園や小学校ではオルガン、ピアノ、エレクトーン等の設備が充実され子供さんは楽しく歌ったり弾いたり合奏したりして豊かな明るい生活を送っております。

一般社会人にももっとそうした設備のある場を与えましょう。

コーラスの中にギターやアコーディオン、エレクトーンが入りますとどんなに楽しい事でしょう。

— も く じ —

〔歌 の 頁〕	みんなで歌をうたいましょう……………	1
〔研究資料〕	地域社会における教育文化センターとしての公民館の現状は…………… ——福岡県公民館の現状と問題点——	4
〔活動事例 1〕	部落・町内を中心とする地域公民館活動の事例…………… ——分館・部落・町内公民館・小地区公民館——	11
〔活動事例 2〕	全市町村・校区を中心とする公立公民館の経営活動事例…………… ——中央公民館・地区公民館——	30
〔表 彰〕	公民館職員表彰者一覧表…………… 分館・部落町内公民館表彰一覧表……………	58 60
〔研究メモ〕	対談と討議・パネル討議・全体討議……………	62
〔特別講演〕	地域社会における生活文化の振興と公民館の役割……………	65
	群馬大学教授 永 杉 喜 輔	
分科会一覧表……………		66

第 11 回 福 岡 県 公 民 館 大 会 ———

1. 主 催 福岡県公民館連絡協議会 福岡県教育委員会
北九州市公民館連絡協議会 北九州市教育委員会
2. 後 援 福岡県, 県市長会, 県町村長会, 県都市地教委連絡協議会
町村地教委連絡協議会, 県新生活運動協議会, 県視聴覚教育協会, 県貯蓄推進委員会, 県公明選挙推進委員会, 県社会福祉協議会, 県農協中央会, 県郡市婦人会連絡協議会,
県 P・T・A 連絡協議会, 県青年団協議会, 西日本新聞社,
朝日新聞社, 毎日新聞社, 夕刊フクニチ新聞社, NHK
福岡放送局, R K B 毎日, K B C

地域社会における教育文化センターとしての公民館の現状は…

福岡県下公民館の現状と問題点

1. 新時代の公民館

(1) くずれゆく伝統的な生活基盤

ア、現代社会の進歩の速度は10年が昔の100年以上に匹敵するといわれる。このように激げしい変化は伝統的な生活様式や生活態度、そして地域社会の仕組を根本からくつがえしつつあるといえよう。

イ、人々はくずれゆく伝統的な生活基盤のうえで、伝統的な生活慣習と眼前に開けてくる新しい生活との板ばさみになり、ある時は伝統に固執し、ある時は新規なものを追っかけるなど、ちぐはぐな生活が展開されている。

ウ、都市は産業の高度成長に伴い人口が増え、深刻な住宅難があるかと思えば、一挙にマンモス団地が造成され、全国各地から集ってきて、植民地的な社会をつくりつつある。他方農山漁村では青壮年が都市に吸収され、高齢者と婦女子が農業労働に従事せざるを得ない状況をかもしだしている。

エ、農村では経済の高度成長に見合う生産性の高い農業とするために、農業構造改善事業が進められているが、残存する封建的な生活慣習と文化のおくれによって必ずしも順調に進んでいない。

オ、またエネルギー革命によって産炭地域では石炭産業が後退し、離職者の失業や再就職に対する深刻な問題をかかえ、石炭産業によって支えられてきた町だけに、商工業そして農業の将来について住民が真剣に研究し、対策を立てなければならない状態に陥っている。

カ、以上のようにいま住民の生活基盤は大きくゆれ動き、新たな生活基盤の創造に向って、学習と実践を重ね、豊かな生活文化を新しい地域社会の上のうちたてなくてはならないのである。

(2) 公民館は新しい生活基盤の醸成に何をなすべきか。

ア、情報センターとしての役割

ㄱ現代の生活では、最も新しい価値のある各種の情報を最も速く入手して、自からの対策を考えることが要求される。

ㄴ公民館は住民の生活に欠くことのできない情報や資料を蒐集し、整理し、構成して、各家庭に素早く伝達しなければならない。

ㄷその方法には、一般の住民大衆に対しては、壁新聞、告知板、ポスター、ビラがあり、家庭

に対しては、有線放送電話、館報、パンフソット、などがあり、これをフルに活用する技術と組織体制がつくられねばならないであろう。

イ、資料センターとしての役割

- ㍻現代の生活には、新しい知識や、過去の記録や學術文化に関する莫大な資料が必要である。これらの資料を蒐集し、整理し、編集して住民の従覧に供し、住民自からが、生活文化の向上発展につとめるような環境を与えてやることが要求される。
- ㍿公民館はこのような現代生活に必要な資料を整備し、個人的に、あるいはグループで自由に、しかも利用しやすい環境を提供しなければならないであろう。
- ㍽そのためには、図書室の環境を整備し、図書、録音テープ、映画フィルム、レコード、書画、各種広報などの利用に便利のように整理分類しておくことが大切である。
- ㍼また郷土の博物館として、先輩の残した業績や作品、記録、などを蒐集保管して住民に絶えず供覧できるよう展示や陳列しておくことも必要である。

ウ、教育（学習）センターとしての役割

- ㍻現代の生活は日進月歩いな分進秒歩の社会の中で営まれているので、昨日までの知識や技術は明日は通用しないといった様相を呈してきている。単なる過去の慣習や常識では、明日の豊かな生活を楽しむことはできないのである。
- ㍿したがって、計画的、組織的、継続的な学習が生活の要求として胎頭してきたのである。
- ㍽公民館は、組織的、継続的学習の場所として、学級、講座を開設し、内容的にも高度な学習が、より多くの住民によってなされるように、教具教材を整備し、見る、聞く、話す、書く、試めす、ことによって、できるだけ抵抗を少くし、効果ある学習条件を整備することが大切である。
- ㍼そのためには、心地よい学習室（講義室、各種の実験実習室等）、が用意され、それに必要な機械、器具が整備されなければならない。

エ、地域社会センターとしての役割

- ㍻現代の生活は個人の独立と尊厳が基本になり、個々人相互の関係、すなわち社会における人間関係がつくられている。
- ㍿したがって、運命共同体的な地域社会は次第にくずれ去り、独立した個々人相互の理解と信頼を基調とした新しい地域社会がつくられようとしている。
- ㍽しかしながらいまだ古い共同体的な地域社会から脱し切れず、新しい考え方をもつ人々との間に深刻な対立と反目を起こし、両者が相互に苦悩しているようである。
- ㍼公民館は、このような対立を解消し、地域の人々が、お互の立場を尊重し合い相互の理解と信頼を深め、協力し合って自他ともにより幸福な生活が保障されるような地域社会の共通のルールを確立し、新しい地域社会の建設のために睦み合う機会と場所を住民に提供しなければならない。
- ㍽そのためには、自由に楽しく睦み合うための施設として、ロビーや歌やダンス、スポーツな

どのできるホール、運動場をもつべきであろう。

(カ)また地域社会の人々が一堂に集り、研究発表会や討論会やいろいろな大会を催し、市民としての共通の意識をつくり育てるような機会と場所を与えるべきであろう。

(キ)その他、地域の各種の機関、団体が横に手をつなぎ、協力し合うために話し合いや研究会が行なわれ、相互の連絡協調の場所と機会を提供すべきである。

新時代の公民館は以上のような役割を果たすものでなければならないであろう。

しかし県下公民館の現状はどうであろうか、いまだに10年前といかほども変らない運営をして、住民からその存在価値を疑われているものはないだろうか、新時代の公民館として、住民の生活に必要な欠くことのできない存在となるためには、何をどうしたらよいかを、公民館を利用する住民大衆と直接の当事者である公民館職員並びに教育委員会や市町村行政当局関係者が、それぞれの立場から意見を出し合い、振興のための対策を考え、その実現に向けて努力を誓い合うことが何より必要であろう。

2. 県下公民館の現状はどうなっているだろうか。

(1) 県下に公民館はどの位あるか。

わが福岡県では101の全市町村に設置されているが、施設、設備、職員の状況は必ずしも充分ではなく、それぞれの市町村によって格差が甚だしい。今後の振興発展が期待される。

ア、公民館施設の状況は第1表のとおりである。

第1表

(昭和38年4月1日現在)

市町村	設置市町村数	公民館数			独立施設			施設の面積						併置・無施設		
		中央館	地区館	計	施設の様態			中央館			地区館			中央館	地区館	計
					新築	転用	計	329㎡以下	330～494㎡	495㎡以上	329㎡以下	330～494㎡	495㎡以下			
市	16	17	161	178	78	35	113	3	0	8	59	15	28	6	59	65
町村	85	84	19	103	29	31	60	12	10	22	11	2	3	40	3	43
計	101	101	180	281	107	66	173	15	10	30	70	17	31	46	62	108

- (註) 1. 中央館は全市町村を対象とする公民館・地区館は中学又は小学校区を対象とする公民館。
 2. 新築は公民館として新しく建築したもの、転用は他の施設を公民館に転用したもの。
 3. 施設の面積は、公民館の設置基準は330㎡以上となっているので329㎡以下と330㎡から494㎡までと495㎡以上の区分を設け、その状況をしめたもの(330㎡=100坪、495㎡=150坪)
 4. 併置・無施設は公民館として独立した館舎をもたず、役所や学校などの施設に併置しているもの、無施設は事務所だけをどこかに併置して施設を全くもたぬもの。

第1表によると市には178館(中央館17、地区館161館)あるが、このうち、独立の施設をもって113館で63.4%、併置又は無施設が65館で36.6%あり、これは今後建築を要するものである。

なお独立館のうち基準以上のものは45.2%で54.8%はすべて基準以下であり、新時代の公民館にはあまり貧弱すぎるのではなからうか。

町村では103館（中央館84.地区館19）のうち、独立施設を有するものが60館で58.2%併置無施設が43館で41.8%で、独立施設は市に比して5.2%も低率である。

なお独立施設をもつもので基準以上のものは61.7%で、基準以下が38.3%をしめている。

とくに文化水準の低い町村にこそ立派な教育文化施設が必要であるはずだが現実はその逆である。

イ、公民館の設備備品の保有状況は第2.第3.第4表のとおりである。

(ア)視聴覚教育器材

第2表

市町村区分		器材名									
		16mm 映写機	8mm 映写機	8mm 撮映機	幻灯機	ラジオ	テレビ	録音機	蓄音機	増幅機	写真機
市	町	79	32	22	150	66	30	84	88	58	20
	村	97	30	31	134	66	14	91	88	54	54
計		176	62	53	284	132	44	175	176	112	74
年間 増加 (減少) 数	市	24	22	18	-33	21	17	37	-	26	-
	町村	8	12	12	4	17	4	13	-	8	-
	計	32	34	30	-29	38	21	50	-	34	-

社会教育の効率を高めるためには視聴覚教具をフルに使用することが要求される。しかるにその整備状況は年々増加をしているものの新時代の公民館にとってはいまだ充分ではなく、利用者側も当事者並びに市町村当局もともにこれが整備について一層の努力が望まれる。

(イ)実験実習用教具教材

第3表

区分		器材						計 算 器
		ミ シ ン	調理設備	工作機械	農水産加工機	タイプ ライター		
市	町	115	92	0	0	3	0	
	村	88	35	0	0	0	0	
計		203	127	0	0	3	0	
年間 増加 数	市	37	23	0	3	0	1	
	町村	4	-2	0	0	0	0	
	計	41	21	0	0	0	2	

公民館が新時代の生活に結びついた学習の施設として利用されるにはあまりにも貧しい実験実習用教具教材の状況である。

年間増加数をみるとミシン、調理設備が多少伸びているが、工作機械、農水産加工関係の用具皆無である。現代の生活に家庭工作やタイプライター・計算機・などの操作を学びたいという要求は強いが、それにこたえる器材がなくては問題にならない。とにかく公民館の学習センターとしての生命はこうした教具教材が住民の学習要求に応じることができるかいなかにあるといえよう。

(ウ)楽器・図書・体育レクリエーション用具

第 4 表

区分	器材	オルガンピアノ	管絃楽器	打楽器	図書	体育レ・ク用具
市		101	1	2	64,756	342
町	村	15	3	74	140,202	330
計		116	4	74	204,958	672

楽器類は年々その必要性が認識され、生活に美しいメロディーや歌が取り入れられてきたことから次第に整備されてきた。オルガン又はピアノはここ1年間に77台、管絃楽器が4、打楽器が76になっている。今後一層の整備への努力と利用度を高めることが望まれる。図書の年間増加数は市で18,434冊、町村で6,907冊となっている。

ウ、公民館の職員は第5表のとおりである。

第 5 表

区分	様態	主事その他の職員		専任館長			兼館任長	兼任館長の本職名						
		専任	兼任	常勤	非常勤	嘱託		市町村長	教育長	社教課長	社教職員	学校長その他	計	
市		151	77	16	113	2	29	1	1	8	8	0	9	29
町	村	153	63	4	25	2	57	18	36	0	2	1	0	57
計		304	140	20	138	4	86	19	37	8	10	1	9	86

(注) 兼務は同一人が数館の館長を兼ねているものは兼務1人として取扱った

(ア)専任館長を置いているところはわずかに20人(8.0%)にすぎず、非常勤嘱託の館長が142人(57.2%)と兼務館長86人(34.8%)で過半数以上をしめている。なお兼務館長の本務をみると町村では教育長、市町村長が大半で、市では学校長、社会教育課長や職員の兼務が目立っている。

(イ)主事その他の職員は専任が1館当たり、市で0.8人、町村で1.5人であり、兼任が市で0.4人、町村で0.6人である。専任兼任を合わせて、市で1.2人、町村で2.1人にしか当たらない。

(ウ)このような職員の配置状況で、新時代の公民館にふふさわしい経営が期待できるであろうか。

(エ)専任館長の設置と優れた専門職員の整備充実が施設設備の整備とともに強く望まれる次第である。

(2) 県下の公民館ではどのような事業が行なわれているだろうか。

ア、情報資料センターとしての事業

(ア)広報活動として館報を発刊している公民館47.9% (118館)

(イ)有線放送で教養番組を家庭に流しているもの8.5% (21館)

(ウ)移動公民館を活用しているもの4.8% (12館)

(エ)住民の生活に必要な相談に応じているもの13.8% (34館)

この領域の事業ははまだ途についたばかりで、今後の開拓と発展が望まれる。

イ、教育文化センターとしての事業

(ア)学級、講座を実施しているもの

学級講座の種類	実施館数	実施率
青年学級	194館	80.9%
婦人学級	217	86.2
成人学級	70	28.4
教養講座	127	51.6
市民大学	13	5.3
こども教室(科学・文化)	21	8.5
幼児学級	14	5.7
英語講座	12	4.9
書道講座	49	19.9

学級講座の種類	実施館数	実施率
産業講座(農・漁・林業)	76	30.9
家事講座	106	43.2
和洋裁講座	45	18.3
茶華道講座	69	28.2
趣味講座	1	80
〃	2	40
〃	2	16.3
実用講座	30	12.2
体育講座	64	26.0
通信教育講座	1	0.4

(イ)教育文化的事業を実施しているもの

種類	実施館数	実施率
演劇	22	8.9
音楽	17	6.9
映画	169	68.7
展示会	86	34.9

種類	実施館数	実施率
レコード・コンサート	47	19.1
指導者研修	159	64.6
文化祭	62	29.3
体育会	173	70.3

ウ、地域社会(コミュニティー)センターとしての事業

事業の種類	実施館数	実施率(%)
地域懇談会	89	36.2
レクリエーション大会	103	41.8
新生活運動の集会	136	55.2
選挙啓蒙の集会	112	45.5

事業の種類	実施館数	実施率(%)
成人の日、こどもの日などの集い	197	80.1
慰安の夕	29	11.3
青年婦人のつどい	102	41.4
嫁と姑のつどい	41	15.4

以上公民館で行なわれている事業を概観すると、学級講座にしろ、教育文化行事にしろ、まだまだ充実刷新の余地が残されているようである。

とくに情報、資料センターとしての機能を今後一層高めるため多くの資材と経費を投入する必要がある。また職員の研修による技術の革新は当面の急務である。

(3) 公民館の経費（予算）はどのように使われているだろうか。

昭和36年度に県下公民館で事業に使われた経費の内容を分析すると次のようになっている。

区 分	事 業	定期講座	青年学級	講 習 会	展 示、 展 覧 会	広 報 費	体育レク	分館、団 体育成費
市	施設を有するもの	14.6%	15.2%	9.4%	1.7%	5.4%	14.0%	39.4%
	併 置、無 施 設	5.2	9.6	11.0	1.8	5.7	7.7	58.8
町村	施設を有するもの	5.4	22.8	6.4	0.2	8.9	12.9	41.6
	併 置、無 施 設	3.0	17.0	12.0	0.2	11.4	13.4	40.8
計	施設を有するもの	7.9	20.7	6.7	2.0	7.9	13.3	41.3
	併 置、無 施 設	3.9	14.7	11.7	2.0	9.7	11.7	46.4

(ア)公民館の事業を新時代にふさわしいものとするには事業費の配分を考えなおす必要がある。

上表にみられるように独立施設をもった公民館とそうでないもの、また市と町村では、事業費全体の配分率が異っている。

(イ)とくに注目すべきことは事業費の40～50%が団体や分館の活動助成費に注がれ、自からの教育文化センターとしての固有の事業がおろそかにされていることである。

(ウ)今後は住民の生活に結びついた新時代の公民館とするために、次の経費を重視すべきである。

- ① 広 報 費 ② 展示展覧会費 ③ 定期講座費

(エ)団体補助は教育委員会の予算に計上し、分館事業の育成は本館の事業の一部として、計上することが望ましいであろう。

部落・町内・を中心とする小地域の 公民館活動の事例

分館・部落町内公民館・小地区公民館

〔問題のとらえ方〕

日常生活に最も関係の深い隣近所のつきあいから、近隣社会の協同活動にいたる人間関係は、社会の進歩発展とともに、いまや大きく変化しはじめている。

したがって古い地域の封建的残滓とその秩序と活動の体制は徐々に速度を速めながらくずれつつあり、いかなる力、いかなる方法をもってしても、これを防ぐことのできない段階にまできているのではないだろうか。

そして一方には新しい地域社会がどんどん生れつつあるが、その秩序や活動体制も充分熟し切れないうで、個人と個人、家庭と家庭が孤立したままになっているところもある。

こうした条件のもとで、新しい隣近所のつき合い、近隣社会の共通の基盤造り、そして新しい人間関係と社会関係の確立をめざして、日常生活の課題を中心にどのような方法で展開していったらよいかを協同の力で発見し、それを育成してゆかなければならないのである。

ここにあげる資料は、それぞれの地域社会の伝統や条件のもとで、現代社会がもたらした課題を、どのように受けとめ、それをどのように克服して、新しい地域社会の建設を進めているか、を個々の事例によって紹介しようとするものである。

しかしながら、ここに紹介されている事例は必ずしも、そのまま、それぞれの地域にあてはめて考え実践することはできないであろう。

ただ、問題のとらえ方、考え方、活動の進め方を個々の条件に即して計画立案する場合、何らかの参考になるであろう。

ステップ・バイ・ステップ、ケース・バイ・ケース・によって地域社会の人々の小さな努力の積み上げによってのみ、新しい地域社会の建設は達成されるものである。

そして、新しい地域社会の建設には内容豊かな生活文化の振興が必須の要件になるであろう。

生活文化の振興は新しい地域社会づくりを助け、新しい地域社会の建設は生活文化の振興に寄与することになる。

このような観点から問題を追ってゆこう。

I 団地や市街地における事例

事 例 1. 北九州市門司区萩ヶ丘公民館

館 長 波 多 江 俊 雄

1. 団地や市街地における地域活動の困難性とそれを克服するための方策

(1) 活動の困難性

団地や大都市の地域活動の困難性は、その形成する人間社会の様相が極めて複雑である半面、ヒューマン・リレーションが稀薄で、いいかえれば親近感が少ない点に起因しているようである。新しい地域社会の建設と生活文化の向上発展を意図する点では自治会も公民館も他の民主諸団体も目標は一つであるが、「我は我なり人は人なり」「隣は何をするものぞ」の都会地、ことに団地族のカタツムリ精神が自然活動や文化活動を阻害している点は否めない。第二に旅の人間が多く郷土愛の精神が薄い。このために

- (イ) 町内会や自治会への不加入
- (ロ) 会費や負担金の納入をしぶる
- (ハ) 伝達の拒否または怠慢
- (ニ) 協議や行事に出席しない
- (ホ) 決定事項の不履行
- (ヘ) 民主団体の背反

などが起こり、公民館活動においても

- (イ) ある種の行事をやっても集まる人が少ないか子供ばかりとなる
- (ロ) グループ造りがむずかしい
- (ハ) 指導者の養成が困難
- (ニ) 施設、経費の不十分

などとなって現われる。

(注＝門司の場合、地域公民館はすべて地元負担を主として自発的に建設、運営され、役職員は自治会同様すべて奉仕)

(2) 実情と対策

まず自治活動の隘路について

(イ) 町内会、自治協会への不加入は、加入が法律的に義務づけられていないため強制できぬという点から最も頭を悩ます点であり、萩ヶ丘校区では町内会として加入していない町内はないが、個人としては数パーセントの未加入者がある。これらは自治協会が末端行政の一翼を担っている関係から諸証明書の発行など町内会に加入せねばもらえないことを説明、加入を説得し漸次減少している。

(ロ) 会費の納入が完全でない点は、異動がはげしいことにもよるが、多数家族の同居世帯や第三国

人に多い。町内役員の努力で減少している。

い伝達については極めて主要な周知事項もあるが各自の判断で不急不要として回覧を拒否または怠るものがあり、途中ストップで以後の人は伝達が間に合わぬ例も少なくない。対策としては各種回覧をなるべくまとめて回す方法と別に要所に掲示、館行事も主なものは日刊紙に掲載してもらおう方法をとっている。

（＝）決定事項の不履行はほとんどないが、話し合いの中で履行を求めている。

（ハ）各種団体の背反は、極力自治協会の中に包含または積極的連絡をとり、最終目標である明るい地域社会の建設と生活文化の向上発展に歩調を合わせるよう努力しており、防犯、衛生協会と婦人会は自治協会に包含し、公民館内にこれら各民主団体の事務所をおき公民館と表裏一体、事業面でも協力実施し効果をあげている。

2. 生活文化向上のためどのような活動が必要か。

公民館活動推進上最も必要とされる点は、まず何としても人を集めること、そして話し合いの機会をつくること、第二に地域と密着すること、自治会その他の諸団体と積極的接触を保ち、地域にマッチした活動を行なうことであろう。

（1）集会を多く

人間関係を円滑に保つ方法は話し合いの中に親しみを増し困難を解決し、明るい社会を築き、生活を向上するにあるので、自治会、婦人会、青少年、子供会、各文化団体はもちろん、個人意識の強い団地の各種集会を極力公民館で開かせている。他面不特定の一般人、婦人、青少年層、老人を対象とするそれぞれの集会を多く計画し漸次成果をあげているが、萩ヶ丘公民館は昨春開館以来一年間にわずか三室の設備で647回の集会を行ない1万2,298人の利用を見た。

（2）行事の種類とその選択

地域の実情とその要求にマッチした活動が必要で実効を挙げることはもちろんであり、そのため地域の構成（年齢層、学歴、職業、生活程度、文化程度）を適確に把握し各階層に行事を分布させている。

（3）すかれる行事、嫌われる行事

教育的色彩の強いものや高度の文化的行事はおおむね敬遠され、娯楽的なもの、生活や社会問題に密接したものが歓迎される。映画会でも教育、防犯、衛生映画は入場者が少なく劇映画は多い。必ず両者の組み合わせを必要とする。講演会、研修会の類は低調だが、料理講座、洗剤講習、ソロバン教室など盛況であり、レコードコンサートは不入りだがダンスパーティは満員という傾向は全国的といわれる。楽しみつつ実益もある行事へ、映画館やテレビに勝る魅力ある行事の研究が必要であろう。

（4）与えるもの、育てるもの

館行事といいグループ造りといい公民館へ足を誘うものは魅力であるが、地域を一括したグループ造りは必ずしも必要でなく、まず同好者の小グループを結成させ、二次的にそのつながりの

橋渡し役を買って出て、発展を助長する方向をとっている。既成団体の育成と併行してまず何らかの行事を館主催で行ない、その来会メンバーからグループ造りをはじめ、漸次自主的運営へと指導する方法はまだ序の口ではあるが実効の曙光が見えてきた。

(5) 金を使わぬ行事

各種教室は講師の選択によってわずかな支出か全く支出なく運営できる。保健所に依頼した20回にわたる栄養講座、各新聞社やニビシ醤油、食生活改善協会、民放、などに依頼する料理講座、日本被服更生会依頼の洗剤講習、ポーラその他へ依頼の美容教室、楽器店依頼の音楽教室などすべて他人のふんどし式で、貧乏世帯の地域公民館では一つの運営方法と考えている。

事 例 2. 福岡市箱崎公民館(貝塚団地)

1. 福岡市箱崎貝塚団地の実態

昭和32年12月に誕生した貝塚団地は、福岡市内電車終点貝塚電停前にひろがる一群のアパートで、西側は博多湾を一望に収め、東側は、北九州に通ずる国道三号線をへだてて、旧競輪場と向かい合った位置にある。

18棟、420世帯(別に独身住宅115戸)、人口1,443人と箱崎校区で一番大きな町で、その9割以上が俸給生活者で占められている。

	世 帯 数	男	女	計
箱 崎 校 区	3,838戸	7,932人	8,092人	16,024人
貝 塚 団 地	420	723	720	1,443
率	10.9%	9.1%	8.9%	9.0%

この団地の特色は、

イ、生活程度が割り合い高度で安定した生活を送っていること。

ロ、主婦の教育程度が高いこと。

ハ、主婦のレジャーが生かされること。

ニ、主婦の年齢構成が若いこと。

2. 学習集団が生れるまで

戦後の目まぐるしい社会の変化の中で、人口増加に伴う住宅不足が生み出した集団住宅あちこちからの寄り合いで発足した貝塚団地も、5年目にして、子どもたちを媒体とした幼稚園母の会、小・中学校PTA等<横のつながりの中で<5名のお母さん方が中心となった<グループの結成が思い立たれ、地域公民館と密接な連携をもちつつ、学習の計画が考えられ<活動が始められた。

一般に、何かグループ活動が始まろうとするとき、最大のなやみは会場であるが、このグループは、団地中央部にある集会所(45㎡)が利用出来たことは、思えば恵まれた環境にあったといえよう。しかし、それだけで、このような活動が出来るわけではなく、そこにはやはり「社会にとり残されてはいけない」「社会のエア・ポケットにならないように」という心意気が、グループをささえてきた。

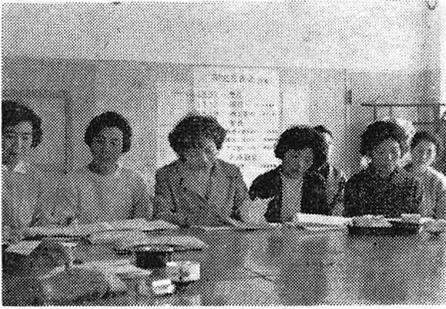
3. 学 習 内 容

学 習 一 覧 表

科 目	教養講座	茶の湯	日 本 踊	習 字	手 芸	図 画	生 花	英 会 話		洋 裁
								初級	中級	
講 師	市 内 大 師 学 講 大 師	千家裏流 中田光子	花柳流 花柳金千恵	野田照明	幸田フキ子	吉村醇三郎	池 坊 内 竹 坊 内	西 南 学 院 先 生	香 蘭 学 院 師 範 教 師	
曜 日	上	月	月	火	火	水	水	水	水	金
時 間	2.00~3.00	2.00 ~ 4.30	7.30 ~ 9.30	6.00 ~ 8.00	2.00 ~ 5.00	4.30 ~ 7.00	2.00 ~ 4.00	7.30 ~ 8.30	8.30 ~ 9.30	2.00 ~ 5.00
講 習 料	100	250	300	250	300	300	200	300	300	250
備 考	毎月教養 全般にわた る適当な先 生にお願 いします	ふくさ は各自 持参					花器は 各自持 参	小 ・ 一 般	中 ・ 一 般 ・ 高 ・	

回	講 師	テ ー マ	参加者
1	九大文学部 小林栄三郎	歴史と文学はどう違うか ——歴史を学ぶために——	20名
2	なし	話し方の練習	10名
3	九大教育学部 小林 文人	道徳教育について	15名
4	西南学院 平田 猛	啄木とその時代	10名
5	西南高校 西村 達朗	昭和史	10名
6	西南高校 西村 達朗	昭和史 第一次大戦後の日本	11名
7	九大教育学部 小林 文人	「山彦学校」を考えなお しましょう	10名
8	安保問題懇 話会事務局 鈴木 先生	政防法について	20名
9	西南高校 野村 達朗	昭和史 第一次大戦後の日本	10名
10	西南高校 野村 達朗	昭和史 政党政治の危機	11名
11	西南高校 野 達朗	日本の労働運動	11名
12	九大教育学部 木林 文人	戦後の教育のうつりかわ り	10名
13	西南高校 野村 達朗	昭和史政党政治の危機	12名
14	ピアニスト 佐藤 博子	こどもの音楽教育につ いて	(子供10名) 40名
15	西南高校 野村 達朗	昭和史 満洲事変	11名
16	九大教育学部 小林 文人	えんびつをにぎる主婦た ち	13名
17	西南高校 野村 達朗	昭和史 満洲事変	12名
18		史蹟めぐり	

回	講 師	テ ー マ	加参者
19	西南高校 野村 達朗	昭和史 満洲事変	11名
20	久留米大 門田見先生	学力テストについて	15名
21	九大法学部 具島兼三郎	世界の動き	30名
22	西南高校 野村 達朗	昭和史 日中戦争	12名
23	西南高校 野村 達朗	昭和史 日中戦争	10名
24	九大教育学部 小林 文人	箱崎小学校の先生を囲ん で	16名
25	西南高校 野村 達朗	昭和史 日中戦争	6名
26	九大 中山 耀雄	主婦の物の見方考え方	18名
27	西南高校 野村 達朗	昭和史 太平洋戦争	7名
28	西南高校 野村 達朗	昭和史 太平洋戦争	9名
29	西南高校 野村 達朗	昭和史 太平洋戦争	9名
30	久留米大学 門田見先生	父兄の教育費負担につ いて	10名
31	西南高校 野村 達朗	昭和史 ポッドダム宣言	7名
32	原田 種夫	現代の文学について	17名
33	西南高校 野村 達朗	昭和史 戦後の日本	8名
34	西南高校 野村 達朗	昭和史戦後の民主化	7名
35	大町多喜子	最近の教育問題から	14名
36	西南高校 野村 達朗	昭和史 二つの世界と日本	9名
37	九大教育学部 小林 文人	反省会	9名



(学習する婦人たち)

このうち習字，図画，英会話には子どもも参加しているが，他はほとんど30代のお母さんばかりで，非常に若々しい感じがする。団地の住人であれば自由に参加でき，会費さえ納めれば，学生が学校で講義を選択するときと同じである。また内容も最初のアンケートをもとにした，あくまで，現実の生活を基本にしたやり方がとられている。

しかし，こういう自由さが，時としてはグループの運営上に，思わぬ繁雑さを招くことも否定できない。

人気のある科目は，洋裁と教養講座で，現実的な技術と，高い教養に結びつこうとするところに，お母さん方のたくましい姿勢が感じられる。

4. 学習活動の問題点

団地内における生活文化の振興，教養の向上のため以上のような学習活動が進められ，明るい地縁関係がきづかれつつあるが，次のような問題が考えられる。

① 学習内容

アンケートをもとにした学習活動のテーマが果たして，地域に密着したものであるかどうか，地域的な要請と個人的関心との関係の追及の問題。

② 各種団体との協調

町内自治会，子ども会育成会，地域のPTA等各種団体との結合の密度の問題。

③ 運営

運営委員会，各科連絡会の性格の再検討。

④ 講師，助言者

講師，助言者はあまりに有名人すぎるようで，なにか権威に頼りすぎる傾向がありはしないか。これは，一つの魅力ではあるが，反面，学習に生活性がやや稀薄であるようだ。この傾向は，少くとも大衆的性格ではない。

5. むすび

集団的生活環境にある団地では，その近代的な住居の構造や生活様式のために，古くからの地縁関係にある立場からだけでは処理しがたい，条件的制約をもっている。ここでは，それらに対する新しい回答が婦人の学習活動に媒介されて，試みられつつある。前述のように，教養講座のごときは，やや大衆的性格から遠いが，それを補足するものに各種趣味活動を持っており，それが日常生活感情と結びついて，地域生活につながり，町内自治会，子ども会育成会，地域PTA等の諸活動と，総合的な活動の形を浮び上らせており，町婦人部が結成されたり，町懇親運動会が持たれたりして，この辺から，明るい町づくりが進められようとしている。

Ⅱ 都市周辺及び近郊町村における事例

事 例 1. 北九州市若松区島郷公民館畠田分館

分 館 長 楠 博 門

1. 地 域 の 概 況

此の地区は錯そうした地形とこれに伴う農・魚・商・工・の人間関係が、ひとつの地域をつくり、小学校4、中学校1、高等学校1、の文教地と、4,028戸と20,156人の人口を有し純農漁村地帯の性格から種々の形態へ移行変貌している現況である。

低品質炭火力発電所、楽翁荘、工業用水池、ゴルフ場、市営バス庁舎、病院がその例でありやがて生れるであろう北九州市のベットタウンとして約束づけられている。

過去封建性強く嫁と姑のあらそい、父一辺倒の家庭生活でもあった。次から次へと人間関係が分裂して行く姿を深く見つめ、前進を阻む障害をつよく自覚した今日、新しいものと古いものとの意識が交流しながら、村づくりの力づけともなり、住民の持つ感応性、協調性をつよく呼び戻す好機が、みんなの願いとなり、この願いが新生活運動の方向づけ価値づけともなっている。

2. 問題点(地域社会の変貌の実態と運営上の問題点)

変貌して行く此の地区に多くの悩みが生じてきた。

1. 兼業農家の増加
2. 若い者の体給生活者の増加
3. 土地買収に伴う利害の対立
4. 結婚への悩み
5. 伝統的行事をめぐっての対立
6. 若妻と姑との人間関係が露骨となってきた。
7. 家庭のくらしの立直しの必要に直面した。

以上の様に地域社会の変貌と共に、新しい地域社会、新しい人づくり、新しい家庭づくりが要求された。

3. 問題解決のためにどのような運動をしたか。

此の問題解決のために、地域を考え、家庭を考え、自分をみつめねばならぬ真剣な生活態度となり、若妻と姑の家庭憲章がつくられ、此の地区の構想図が各分館から出された。

更に新生活運動の6テーマである、1.「教養」2.「家庭生活」3.「生産」4.「生活改善」5.「農公休日」6.「環境衛生」を高める生活の実践活動がなされた。更に進んで人づくり、家庭づくりの家庭の話し合い運動へと発展した。

1. 住民の募集による家庭の標語

「家庭会議でたのしい暮らし」を全戸に配布した。

2. 分館毎にモデル家庭が職業別に推薦され実践活動の中心となった。(数は81家庭)
3. 更に38家庭を、モデル家庭の助言誘導推進家庭とした。

話合いの形は、家庭の話合から、父と青壮年の話合から母と子供の話合から、夫婦の話合から、職業別による話合から、此のような形の話合から次のような標語がつけられた。

(愛情, 真実, 感謝, 反省) 更にあたたかい言葉いっぱい運動が提唱された。又モデル家庭の分館のくらしの目標がつけられた。

4. 公民館の施設設備の果たした役割

1. モデル家屋が生れた。
2. 若夫婦の別室がつけられるようになった。
3. 家屋の改善工夫がとみに高まった。
4. 家庭の大事さが地域話題として強くなった。
5. 父親の生活態度が反省されるようになった。
6. 生産面として島郷白菜の特産地化及び果樹園の集団化が促進された。又一面貯蓄の活動がとみに高まった。
7. あすの島郷の構想図が作られた。
8. 各分館の自主活動が深まった。

23分館中新築分館4分館(昭和37年度)

5. 今後の課題とホープ

1. 分館施設の充実と泊り合い研修に留意, これを育成する。
2. 町や村をきれいにする運動の実践体制をつくる。
3. モデル家庭を拡大し, 校区別のモデル分館をつくる。

要は明るい楽しい平和な村づくりは, 正しい信念を持った人づくりから始められ, それらの人々による話合により実践活動が行なわれ, はじめて, その属する地域社会の共同の利益, 共栄の生活が生みだされるのである。

事 例 2. 筑紫郡春日町千歳町公民館

館 長 村 田 利 行

1. 地域の概況

千歳町公民館は, 福岡市に隣接する郊外住宅地筑紫郡春日町千歳町にあり, 国鉄雑餉隈駅から徒歩15分, 西鉄大牟田線春日原駅より10分, 西鉄春日原線ベース前下車徒歩3分のところにある。東は板

付米軍航空基地，西に米軍レーダー基地脊振山，南に米軍春日原基地，北に自衛隊第四司団司令部という名実ともに「基地の町」の中心部にあるため，利用度高く，特に地域社会の文化向上が当面の課題である。（部落構成状況）当町は昭和37年5月1日春日荘と荒巻の両部落が合併統合し，名目上は，新興部落のように見えるがその実はそれぞれすでに十数年の歴史を持っている。

春日荘は，戦時中九州飛行機の工員，社宅として，荒巻は終戦後の住宅難を解決するため県が建設した用地で，併せて700世帯からなり，春日町内でも1，2位を争う大きな部落に成長した。

これを職業別世帯数で表示しますと左記のとおりです。

公務員及び準公務員	390世帯
会社，工場勤務者	215 "
商 店 数	45 "
そ の 他	50 "

2. 問 題 点

新興部落という恵まれた2つの部落は，それぞれの環境の中で旧来の慣習から脱皮するため，それぞれの公民館を中心に生活改善と文化教養を昂めるため，種々の集会が持たれ，鋭意その進歩向上に努力した結果，千歳町としての合併発足の気運が昂まった。荒巻県住払下げ時期に関連し荒巻公民館の早急立退き命令が時あたかも，春日荘の単独予算による公民館建設計画と偶然に一致したことが部落統合の直接原因となった。

理想の公民館建設の相言葉で昭和37年5月1日希望の船出をしたが，肝心の両部落性の調整が無視されていたため部落統合後公民館運営上の困難な問題点が現われた。

1. 春日荘は，工員住宅を基盤に成長した庶民的グループの集いのため非常に融和性に富み団結心が強いのに対し，荒巻は団地族にみられる個人プレーに徹し融和性に乏しいという両部落の宿命的な性格の相違点があった。
2. 職業別世帯構成からみると，春日荘に比し荒巻の大半が公務員及び会社員という職業意識からくる変な意味のプライドがたかい。以上の2点が公民館運営上の問題点であった。

3. 問題解決のために

千歳町区規約第1条の「和と発展」を第1年次の目標に置き，人づくりとグループ活動に計画の重点を置いた。

1. 子供会組織の改編……先づ婦人層の支持を受けるため，子供を通じて隣保感情の盛りあげに目標を置きブロック毎に隣組単位の小グループを編成しブロック班長のうえに子供会会長を置き，母の会からは相談役として子供会指導会長を選出して，各ブロックの自主性を見守った，その結果，今まで口もきかなかった母たちが子供可愛さに，それぞれの立場を認識し話が交されるようになった。主として団体行動によるものを選び，各組対抗ソフトボール大会，キャンプファイヤー，盆踊り，習字，ヤマハオルガン教室，中学1年から3年までの課外補習として学校当局と密なる連絡のうえ本年5月

6日英数学教室を開講した。

2. 婦人部改編……従来からの婦人部の体質改善として農協物品委託販売を中止し、教養と実益を兼ねたグループ活動に重点を置いた。先に述べたように、性格的相違のある旧部落婦人をいかにして集め、いかにして融和させるかに苦慮したが、婦人部の幹部の努力の結果、対抗意識がうすれ下記のよ
うなグループが出来た。

1. 手芸 2. 料理講習会 3. 習字 4. 踊り 5. 婦人学級 6. ママさんコーラス
等であり、従来は公民館外の婦人部として活動していたが今回は、公民館婦人部として吸収し、みんなの意見を尊重し、決して強制的にしないことがグループ活動のさかんになった原因といえよう。

3. 青年部の改編……青年は婦人と違って早く融和し、グループ動も活発で部落融和の先達者として、子供会、婦人部、年輪会等の仲介役としてその責に当たっている。

グループ活動として 1. 青年講座 2. 料理 3. 生花 4. 趣味 の会等の活動によりこの層の融和が保たれている。

4. 年輪会の拡充……若人と老人の考え方、嫁と姑の問題等多くの時代錯誤の怒りを胸に秘め余生を送る老人に娯楽の途を講じてやるべきだという発案がかっての春日荘公民館役員によって唱えられ、昭和38年8月25日発会した。当時30名足らずの会員が集会の度に増えて状態を木の年輪にちなんでその名を「年輪会」と銘打ち、自然を愛し育てようと、部落の一角の県有地広場の竹藪を寒さに負けず始めた開墾を「年寄の冷水」と冷笑されながら耕やした花畑が、いつとは知れず部落民の協力により立派な花壇と変わり、全国的に展開された公民館の「花一ぱい運動」の指定地域として指定されたのが36年5月であった。

今では、毎月1回の定例会には公民館に集まり、かつての苦労を忘れ、四季に咲くきれいな花を眺め、腰をのばして終日笑いが公民館に溢れるようになった。

4. 公民館の施設、設備の果たした役割

年輪会の発案に協力完成させた部落民は、日増しにその内容を整えた広場に対する愛情は従前と打って変わり、部落統合のため一切の部落財産を売却した浄財で千歳広場の一角にしかも部落民の協力により完成した花壇を背景に建坪80坪に及ぶ理想の公民館が37年11月完成した。同月21日落成式終了後、旧春日荘時代の千歳祭を盛大に実施した。年輪会の方々の一寸した奉仕作業が千歳部落発展の大きな礎となったことは、部落史に永久に遺ることと思われる。

5. 今後の課題とホープ

1. 公民館の活動を反省する時、いろいろ問題はあるが、その中で特に活動に参加する人々が固定化しているのと、関心がうすい不特定層と全然参加しない層とが判然としていることである。

これらの層にどのような活動と方策をたてるかが今後の研究課題である。

2. 当公民館は、幸いにして「花一ぱい運動」と「新生活運動」の指定地域でもあるのでこれを機に当千歳広場を立派な住民の憩いの場としてフラワーセンターを企図している。

Ⅲ 産炭地における事例

事 例 1. 田川市会社町公民館

主 事 大 月 弘

1. 地域の状況

田川地方は、その昔農村であったが、石炭資源が発見されて、産業構造が一変し、農業に代って石炭鉱業が発展し地域の様相は変貌した。

近時、炭田の老朽化と燃料政策の転換により、炭鉱の閉廃休山、企業整備関連、中小工業の倒産、疾へい等の現象がおこりその結果は失業者の続出停溜を生じている。

当会社町地区は、この田川市の西の商店街に接続した、面積1.5平方キロの地域で住民は大むね俸給生活者、労務者で占められており、戸数350戸人口1,427人である。

なお生活保護世帯は71戸（5戸に1戸の割）である。

2. 公民館の活動状況

(1) 予 算

昭和37年度総予算75,000円（1戸当り1ヶ月25円）

(2) 目 標

昭和37年度努力目標

- (1) 生活合理化
- (2) 公衆道徳の高揚
- (3) 家庭並びに地区環境衛生の強化
- (4) 青少年の育成補導

(3) 主 要 行 事

- (1) 婦人学級、料理教室、生花教室、書道教室
- (2) 成人式、子供大会、敬老会、映画会、展示会、運動会、母の日行事、慰霊祭、ハイキング、囲碁将棋大会
- (3) 諸集会利用92回（人員延1,020人）

3. 運営上の問題点

- (1) 地域環境の悪化……産炭地の変貌がそのまま、精神的、経済的に地域環境に影響している。
- (2) 経費難……1戸25円程度の負担が限度で施設行事实施に支障を来している。
- (3) 青年層の減少……地域振興の中心となるべき青年層の他市への流出がはげしく、公民館運営の面にも支障をきたしている。

(4) 指導者の不足……優秀な指導者が転業等のため不足をきたしてきた。

4. 今後の努力方針

- (1) 新築公民館の建設……現在の転用施設から独立新築の公民館の建設へ早急に実現化したい。
- (2) 青少年の育成……特に子供会の、より充実に努力する。
- (3) 明るい地域環境作り……現在の環境悪化に 対決して公民館活動の 力により明るい環境作りに努力する。
- (4) 設備、備品の完備……現在の貧弱な備品、設備を徐々に完備してゆく。

事 例 2. 田川郡糸田町真岡分館

分館長 藤 浦 一 十

1. 地域の概況

人口 1,010 戸数 257

元真岡炭鉱炭住街で、約15,000坪の敷地に四つの炭住部落がある。

昭和33年5月閉山、同年12月合理化法買上。閉山後満5年、嘗っては糸田町内に数十を数えた炭鉱も現在一坑も残さず閉廃山した。

2. 問題点

真岡部落257世帯の中、被保護世帯が145世帯、すなわち55%を占め尚殖えつつある。働かなくても最低限度の生活が営める事が、住民の生活意欲を極度に低めている。失対や緊就事業に日傭いとし稼働する他は、田川市内や郡内の炭鉱でもぐりで働いたり、いわゆる拾い仕事に出ている。このような環境が怠惰と狡猾の気風を育くむ温床となり、生業を得られない人達が巷に溢れ、学童は教育扶助を受けることに何らの疑いも挽まない現状である。この実態は由々しい問題である。

3. 問題解決のために

(1) 授産所兼公民館建設

合理化事業団から払下げを受けた炭鉱病院本館を増改築して71.82坪の施設を作った。

(2) 子供会活動の育成指導

各部落毎に子供会とその育成会を作った。子供を中心にした分館活動を展開した。

(3) 労働意欲高揚のため内職奨励

まづ婦人会を中心にして内職活動をした。レース編み（タコ糸編み）動物バッグ製作

4. 今後の課題

(1) 自力更生への努力

婦人会、行政組合の組織を中心に話し合いと実際活動としては授産活動をさらに推進するかたわら、強力な政治措置による工場誘致促進を期待する。

(2) 環境衛生等の整備

共同便所、下水施設の整備

環境美化運動展開。

(3) 団体活動の助成

子供会、育成会、婦人会、青年会活動の生成発展をはかる。

IV 農山漁町村における事例

事 例 1. 糸島郡前原町末永部落公民館

前原町末永 中 村 半

1. 地域の概況

前原町の中心から南東部へ約8軒雷山々系の山麓近い純農村地帯である。

1. 戸数 89戸

1. 人口 447人

1. 職業構成 農業90% 商業その他10%

1. 農業規模 平均反別 約1町 山林は少い

1. 生活程度は平均して中農といえるが最近青年、戸主共日稼ぎに行く者が増えている。

1. 同和地区 12戸 50人

農業 4戸 出稼ぎその他 8戸

2. 問題点

1. 地域の公民館活動を推進するためには先ず地域の人々の人間関係が大切である。人の和なくしては如何なる社会教育活動も意義がないと言える。特に民主的な部落を運営し教育活動をすすめる基本的な課題として人間尊重の精神が生かされ民主的な明るい部落作りが考えられなければならない。

2. 32年6月末永部落に於て田植の際ある女性による未解放部落に対する失言問題を契機として、全部落民相集い今後かかることが起きてはならない。また起こしてはいけない。部落の発展は差別のない平和な明るい人間関係にあるとし人権尊重問題、民主的社会の実現を一般に認識させるべく部落民と度々協議を重ね、これを部落の公民館活動としてとり上げ農繁期を除き毎月15日を

農休日と定めて午後1時各戸より必ず1名以上出席して講話を聞き、また話し合いをしてお互に人間としての修養をしようと申し合わせた。また部落の教育目標として次のことを決議した。

1. お互に人権尊重を致しましょう。
2. 人を尊敬する人は尊敬される人であります。
3. 人のよい点を見て人格を尊重しましょう。
4. お互に修養に努め人格の向上を計りましょう。
5. 人を批判することよりも自分の今日を反省しましょう。

このスローガンを部落公民館の正面に高く上げ各戸にも一般によく目につく所に貼布するようにした。

また組織として同和会（同和教育推進協議会）を結成し会長1名副会長1名委員4名を選出経費は部落費により15,000円を計上し地域ぐるみの運動には入った。

3. 実践のあゆみ

同和教育をあらゆる教育活動の中心課題として実践活動には入ったので最初は啓蒙活動を主体として講演会、主婦講座、映画による話し合い等を定例日を中心として開催した。その内容は

1. 部落問題を正しく認識しよう。
 - 部落の歴史 ◦ 差別の実態と解放問題
2. 人権尊重を徹底し生活化しよう
3. 青少年問題を理解し地域ぐるみ育成しよう
4. 新生活運動を推進しよう

講師を招いての講座型で学習内容に興味がなく出席させるのに苦勞したが、次第に認識も深まり進んで出席するようになり、また学習の内容も映画話し合い等の方法を取入れ楽しい集いにするように努めた。

またその結果生活の中の問題をお互の話し合いの中でとり上げ改善していこうという態度が生まれ、例えば傭人に対する扱い方も民主的に家庭の1人として差別をしない、その人権を認めよう、農休日等も一諸に休ませようといった申し合せも出来、次第に明るい村づくりが実現されつつあることはやはりこの運動の成果の芽ばえとして喜んでおる次第である。

4. 今後の課題

明るい地域社会の建設はやはり経済の安定が基本であり、行きづまった農業を今後どう考えどう改善していくか大きな転換期でもある。農業構造改善も本町で実施されているが、がいろいろ問題も多くまた青少年の離農、都市への集中化は当地にも今後の大きな問題となっている。こういう直面した課題を部落一丸となって切り開いて行くためには公民館活動をもっと生活に直結した研修の場として考えて行かねばならない。またそうすることが真に明るい村づくり、差別のない民主的な社会の実現につながることであると思われる。

事 例 2. 浮羽郡浮羽町檜ヶ平分館

分館長 堀 江 崙 雄

地域の概況

1. 戸数 62戸（内農家57戸非農家5戸）
2. 人口 340名
3. 農家平均耕作面積 3反6畝
 1. 山林所得収入を主とする家族 10戸
 1. 田地 ” 15戸
 1. 勤労 ” 20戸
 1. 営業 ” 4戸
 1. 其他（山林、田地、勤労の所得はあるが其のいずれが主でもない家）13戸
4. 分館活動の実態（主なるもの）
 1. 年始金 約80年前より続けられている。
 1. 農休日の実施 昭和36年度より
 1. 防犯灯の設置 昭和37年2月
 1. 水稲坪刈共進会の実施、農協青年部を中心として昭和35年より実施
 1. 納税準備積立貯金実施
 1. 医療費 積立貯金実施グループ活動として
 1. 茶 研究グループ 製茶工場 2. 加入者戸数 19戸
 1. 果 樹 ” 昭和32年度より消毒薬共同購入、講習会実施
 1. 牛飼育 ” 昭和35年度より 共同積立金、共同飼料購入 話し合い会
 1. 杉 苗 ” 共同販売等外に婦人会、青年団、子供会にはそれぞれの事業及研究グループがある。

指定分館を委嘱されて

昭和37年7月13日

指定分館及びモデル子供会の研究を委嘱される。

7月15日

部落小組合長に指定分館を委嘱された事を計り活動目標などを話し合う。

活動目標として、妹川公民館より指示されたとおり、まづ最初は分館の組織をつくる事に重点をおき、年間事業計画及び予算の事で話し合った。

又分館長は、小組合長の意見を聞き、小組合代表及び婦人会、青年、農協青年部、消防団、子供会各代表、学識経験者等による分館運営審議員を選出した。

8月4日

運営審議員会を開き、分館役員を選出、各部を造る事、分館活動目標などを審議した。

8月8日

部落総会を開き（戸主，婦人，青年）分館役員の承認部落としてやりたい主な行事，年間予算，分館組織の事で話し合った。

- ① 分館としてやりたい主な事業は，各部ごと，たとえば産業方面ではどんな事をしたいか，保健衛生方面ではどんな事をやりたいか等，部落全員の意見を聞いた。
- ② 予算の収入では，自己負担，寄附及び補助金，現物（米）による分館費徴収等3つの収入による予算をたてる事にした。
- ③ 各部員は希望者ではなく，各小組合からどの部にもはいるように，又夫婦同じ部に入らないように役員に於て決めた。

この場合婦人会の方が，支部学級で，部員がきまっていたので，男の方が同じ部に入らないように部員を作って行ったので，簡単にして全員のなっとくにより部員をつくる事が出来た。

櫛ヶ平分館活動の実際

	目 標	4 月	5 月	6 月	7 月
本 部	1. 分館組織の強化 1. 集会集合時間の励行 1. 明るい豊かな村造り	防犯灯管理の件	子供会育成会 子供の日の協議会	1. 苗代消毒の件 1. 新農業使用について	指定分館委嘱について共同防除と夏季衛生について
産 業 部	1. 農業構造改善の研究 1. 特産地造成の研究			1. 苗代の共同防除 1. PCP尿素農業使用講習会 300	水稲共同防除
文化防犯 教 養 部	1. 知識の向上 1. 婦人消防の結成 1. 明るい人間関係を造る	防犯灯管理者委嘱と増灯研究研究会	家の光読書会		婦人消防の編成
厚生体育部	1. 体育の向上 1. 敬老心の昂揚	部落慰安会各戸負担	道路愛護	お墓の清掃	
保健衛生部	1. トラホームの撲滅 1. 環境衛生の徹底	料理講習会 500	大 清 掃 危険物処理 5,302		蚊蠅の撲滅 8,540
青 少 年 部	1. 子供会の育成 1. 青年団活動の援助		子供の日 2,000	電蓄の購入	親子遠足 各戸負担
青 年 部	1. 社会的地位の向上 1. 子供会の指導	敬 老 会 5,000	子供会指導援助		獅子まわし 浪曲大会

8月16日～21日

各部は、部落総会で、みんなの希望意見のあった、やりたい主な行事を中心にして、各部ごとに部会を開き、事業計画及び予算をたてた。

8月22日

運営審議委員会を開き、各部の事業計画及び年間予算を検討審議した。

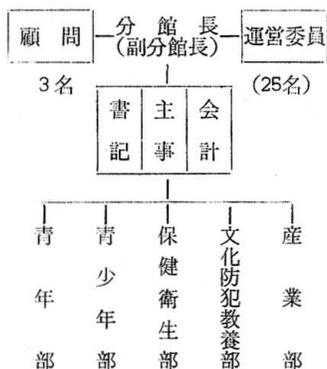
予算の関係で、各部で計画をたてたものの内、とりやめした行事もあったが、予算では最初の計画をオーバーしたので、今まで続けていた子供会援助費（年2回）等を含めた公民館費を、各戸より出してもらうことにした。

8月24日

分館常会に於て、事業計画、年間予算を確認
ここに極ヶ平分館の活動に、実際にはいる事になった。

8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1. 運営委員会 1. 分館組織の強化	全員協議会	運営委員会 290		運営委員会 全員協議会	運営委員会	1. 運営委員会 1. 協議会	1. 運営委員会 全員反省会
農業講座 370		水稲坪刈 1,843	農	畜産品評会 4,152			春そ菜の講習会
婦人消防ポンプ操作講習会	移動役場 婦人消防結成 4,277 文化映写会 2,120	社会映写会 1,000	繁		成人講限 (青少年部と合同)		警民懇談会
お墓の清掃	老人の日 500 バレー大会	道路愛護	期	お墓の清掃	養老院慰問 1,000		
		大 清 掃		寄生虫駆除 6,630	眼病検診 妹川公民館より		衛生講話
1. 只今勉強中 1. 部落学芸会盆相撲及盆綱引	子供会に毎月誕生会を初める 600	誕 生 会 725	誕 生 会 600	クリスマス 3,150	子供心理学講座 1,700 鬼火たき及もぐら打誕生会 600		子供会歓送迎会
盆おど盆相撲キャンプ 500					青年部共同作業	青年と戸主婦人会との懇談会	

檜ヶ平分館組織



活動の効果と今後の方針

指定分館を委嘱され、活動を初めるのと同時に、保育所の開設、バス車庫建築等の問題が部落内であり、分館活動がこれ等の問題と同時にあったので、多少の負担になったが、人の和という点については、特に強く見られ、部落全体にみなぎっていた。

1. 分館行事は農休日を利用したので、出席が良かった。
1. 家庭生活に於て計画的なものが見受けられるようになった。
1. 婦人会のグループ活動、子供会の活動にたいして、戸主の協力が特に見られるようになった。
1. 分館での行事、故に戸主の出席が良く、研究がよくなされた。
1. 特産地(栗)の造成の動きが見られた。(この度栗苗2,500本程新植された)

今後の方針として

生産に結びついた分館活動に重点をおく。

特に栗の増植が強く見られたので、栗の栽培を分館事業に取り入れ、特産地造成に活動する。

檜ヶ平子供会

会員 90名 内小学生 59名 中学生 31名

モデル子供会を委嘱された活動にはいるまでの歩み

昭和37年7月13日に指定分館を委嘱されたのと同時にモデル子供会の研究を委嘱された。

8月4日

分館運営委員会に於て分館活動のひとつとして、子供会も活動することになり、分館青少年部が子供会の育成会となった。

8月20日

青少年会に於て次の問題を研究討議した。

- ① 現在まで続けている毎週土曜日の子供会は、子供に負担になりはせぬか。
- ② テレビの普及で子供会の出席が悪くなって来ているが、子供がよるこんで出席する子供会にするためには、どんな事を親たちは援助したらよいか。

㊦ 遊び場がないため、お宮、公民館でのあそびが多いが、これら公共物を破損するような事が多いが、どうしたらよいか。

㊧ 中学生と小学生合同の子供会で今後も良いか。

以上の問題は、部落の婦人会及び分館運営委員会に於ても研究した。その結果、親たちも子供の心理について勉強するため講座を開く事にした。又、毎週土曜日の子供会を、月2回にしてはどうかという事を、親の意見として子供会に計る事にした。

全市町村・校区を中心とする 公立公民館の経営活動事例

中央公民館・地区公民館

〔問題のとらえ方〕

急激に進展する現代社会の中で、人々は過去の知識や経験だけでは生活できない状況に追い込まれている。

したがって現在から将来に向けて幸福に生きるためには、古い伝統的な知識や経験、そして地域社会の生活慣習と新しい知識や技術、そして現代に即した生活様式を、自から吸収し、それを過去のものとして調和させ、それぞれの生活を樹立しなければならない。ここに生活文化の新しい内容とその在り方が問題になってくるのである。

公民館はこのような新時代の要請に従って教育文化センターとしての機能をもたなければ、その存在価値を失ってしまうような事態に立たされているのである。

ここでは、住民の部落や町内を単位とした小地区の公民館活動における新しい地域づくりと生活文化の振興に呼応して、公共的施設としての中央・地区公民館の経営と活動を刷新し、再編成して、生活文化の向上発展に資するように、その施設、設備、事業、を再検討しようとするものである。

ここに集録された事例は、独立施設をもち、充分ではないが、新時代の公民館にふさわしい施設、設備を備えていると思われる中央公民館および地区公民館の経営と活動の一端をあらわしたものである。

しかしながら、これらの公民館の経営や活動も、地域住民の立場からすれば、いろいろ不便なところもあるだろうし、施設設備の点でも時代の進展に即応できないものも多いであろう。

また情報、資料センターとしての機能、そしてコミュニティセンターとしての機能とそれぞれの機能についてみればなお問題もあるであろう。

ここでは、こうした問題点をはっきりと意識したうえで、それを克服するために、どのような考えで、どのような方法がとられているかを中心に検討してゆきたい。

また、将来に備えて、生活文化の振興のために、その内容と在り方をも検討し、人々の生活に価値あるものを蒐集、整理、編成して、もっとも効果的方法をもって事業を推進する新しい組織体制をかためるため役立てたい。

I 団地や市街地

事 例 1. 北九州市八幡区陣山公民館

八幡区清納町 原

啓

I 八幡陣山地区の概況

1. 人 口

区 会 名	町会数	組 数	戸 数	人 口
黒崎第1区会	12	104	1,278	5,248
〃 第2区会	15	126	1,977	8,972
〃 第9区会 (その一部)	10	88	1,220	5,708
計	37	318	4,475	19,928

保護世帯 212戸

2. 学 校 施 設

学 校 名	学 級 数	児 童 数	学 校 図 書
陣山中	29級	1,380名	3,172冊
陣山小	26	1,171	4,716
城山小	18	851	1,965
計	73	4,402	9,853

中学卒業者の進路

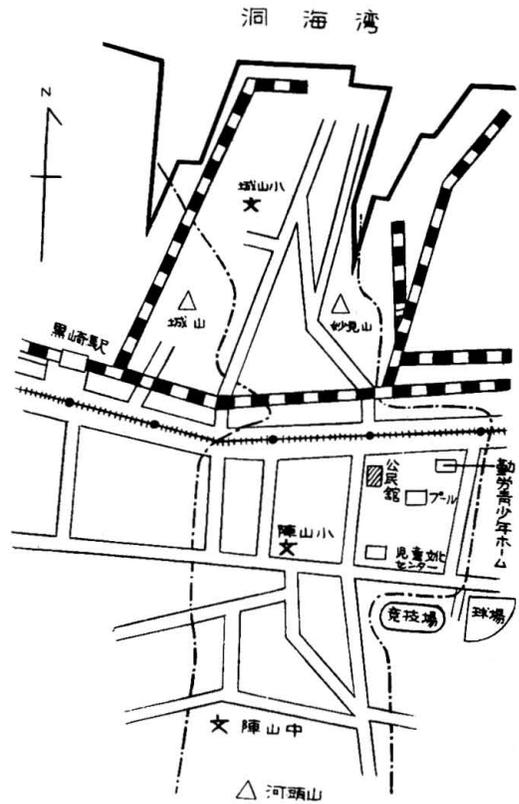
卒 業 数	360名
進 学 者 数	255名 (公151 私104)
就 職	80名
家事その他	25名

3. その他の施設

- 八幡児童文化センター ○ 八幡勤労青少年ホーム ○ 運 動 公 園
- 水泳プール, テニスコート, バレーコート, 球場など
- 小 公 園 4カ所 ○ 派 出 所 2 ○ 日 用 品 市 場 3
- 公 共 職 業 安 定 所 1

4. 地 区 の 特 長

(ア) 東西に短かく、南北に長い地区。



国鉄、西鉄とで南北に2分されている。東は八幡製鉄、アパート団地、西は黒崎駅前を中心とした繁華街に隣接している。

(イ) 中小企業工場の密集する地区で、これに勤務する従業員の数は多い。

各工場の連絡機関として、築地会(73社)安協会(58社)鉄工業協組(37社)等がある。

(ウ) 煤煙の多い地区で、北崎城山地区の降下煤塵量を、他市と比較してみると、つぎのようにあげられる。

各地降下煤塵量

八幡城山	58.5
札幌	25.5
東京	21.2
川崎	21.9
横浜	16.8
大阪	23.2
宇部	33.3
神戸	10.0

(1月1平方軒の降下煤塵単位トン)

(エ) 地区の職業構成

区	分	%
工業関係	八幡製鉄	37.1
	三菱化成	3.2
	安川電機	2.7
	黒崎窯業	2.5
	中小企業関係	18.4
高業関係	日用品、食料品	8.2
	電気製品販売	0.3
	衣料品販売	0.6
	薬局	0.2
	その他	3.4
その他	会社員	5.6
	公務員	3.8
	教職員	0.8
	建築業	4.1
	運送業	1.3
	自由労働者	1.9
	その他	5.6

II 陣山公民館の概況

- 所在地 北九州市八幡区桃園公園内
- 開館 昭和35年11月25日
- 職員 4名(館長1. 職員1. 用務員2)
- 平面図



○ 建坪 561.97m²
○ 建築費 7,314,700円

5. 機 能

区 分	内 容	
部 屋	講 堂	引幕, マイクアンプ, 卓球台
	和 室	21.5帖, 机, 水屋, 押入
	調 理 室	ガス7孔, ガスコンロ14台, 水道7蛇口, ユニットキッチン式
	事 務 室	ラジオ, 図書, 小会議机一式, ガス1孔
	湯 沸 場	湯茶用具戸棚, ガス1孔, 水道1蛇口
	小会議室	6帖, 押入
	便 所	女子用3, 男子用大1. 小3
各 種 器 材	教材器具	ミシン4台, オルガン6台, 調理用具40人分一式, 図書400冊 展示用パネル10枚, 卓球用具, バレーボール用具, 野球用具
	連絡器具	自転車, ホンダスーパーカブ(職員用)
	印刷器具	デュプロ印刷機, 輪転謄写機
	視聴覚器具	エルモ16%映写機, ポータブルプレーヤ, ステレオプレーヤ
	結婚式用具	会席膳部30人分
	そ の 他	敷ゴザ10本, ガスストーブ7台, 囲碁・将棋各2組, 灰皿100, 湯呑150, その他ヤカン 盆など

III 公民館と地区活動との関係

1. 施設・備品の面から

(ア) 利用状況

年 度	利用状況			使用料収入
	件数	人員	件	
昭和36年度	1,222	42,120	353	116,770
昭和37年度	1,638	49,780	420	170,890

(イ) 図書の提供

公民館図書・図書館貸出図書を提供

(ウ) 卓球に提供

講堂の空いているとき。(午前12時から午後5時まで)

(エ) 団体の利用

諸団体の書類戸棚。連絡周知のためのプリント, ポスター等の作製場所ともなっている。

(オ) 結婚式会場として

婦人会生活改善委員会の奉仕

(カ) 施設の維持

利用状況内訳

区 分	%
館主催講座講習	22.7
社会教育関係団体	15.3
文化団体	0.8
地域サークル	8.9
福祉関係団体	2.3
学校教育関係団体	0.1
官 公 庁	3.5
会 社 工 場	5.1
労働組合関係	3.3
職 域 サークル	9.7
民 間 団 体	8.9
結 婚 式	1.6
そ の 他	17.8



(青年交換会受付風景)



(絵画講座で絵を描く青年たち)

地域青年グループが館の大掃除に奉仕。

地区老人クラブが館周辺の除草作業。

婦人会が座蒲団の洗濯、入れ替え。

2. 活動の面から

(ア) 学習意欲が高まっている。

講座、学級、講習会への参加者および利用者が増加。終了後も自主的に学習を続けている。

(イ) 新しいグループが出来ている。

地区新成を祝う会、青年学級等で青年グループ。図書利用者を中心とした読書グループなど。

(ウ) 職場勤労者の利用が多くなっている。

計算尺入門、危険物取扱講習などの開設に刺戟されて利用が増している。

(エ) 地区内諸団体の意志疎通がなされている。

隸山地区会議、団体代表者会議などにより、団体相互のコミュニケーションができていた。

(オ) 館外での諸活動が活発になった。

社会学級、小地区公民館と連絡をとり、その活動に協力している。

IV 今後の問題について

1. 施設とその利用からみて

(ア) 利用増加と部屋数不足の問題。

○ 職場勤労者、地域居住者のいずれかの利用に重点をおくか。

○ 地形、人口数、活動量に適した施設規模のありかた。

(イ) 館周辺の屋外施設と貸出備品の整備充実の問題。

2. 活動の面からみて

(ア) 公民館対象地域と地区内団体の組織範囲のズレという問題。

(イ) 公民館を図書館分室のように考え、図書を配置する体制の問題

(ウ) 公民館報を、系統的に全戸配布する問題

(エ) 縦割りの行政組織の中での、公民館の位置と、地区の多彩な諸活動との適合の問題

事例 2. 北九州市戸畑区鞘ヶ谷公民館

分館長 局 丹 次 郎

I 地域の概況

北九州産業経済圏の中心に伍し、天然の良港洞海湾の門戸をしめるとともに、背後の筑豊の石灰、大陸貿易の至近基地といった恵まれた条件のもとに、八幡製鉄戸畑製造所の設立をきっかけとして急速に発展した街である。八幡製鉄戸畑製造所、日立金属、旭ガラス、東洋製缶、明治製糖、明治製菓や、新らしく製鉄コンビナートとして出現した八幡化学、九州化学、八幡鋼管、さらには遠洋底引漁業として有名な日本水産、報告水産などの近代産業や水産加工業に代表される大企業や、沖台地区に集中する中小鉄工企業と併せて、働く街、としての姿が戸畑の特徴である。

この他戸畑の市街地面積が県下20市内最小であり、人口密度も高く、全国有数の人口密集地帯であることも、戸畑を語るにあたって落すことのできない点である。

夢のかけ橋「若戸大橋」の完成や「北九州市」の発足とともに、その総合的な開発計画の中で、新しい街づくりに脱皮しようとする市民の意欲が、社会教育の諸活動に示され期待されている。

とくに鞘ヶ谷地区は、八幡製鉄の社宅街として、戸畑の南部に八幡区と隣接して位置し、地域の特殊性に根ざした活発な自治活動が行なわれ、公民館を中心にした社会教育の諸活動推進に目覚ましい努力が続けられている。

戸畑の概要

1. 面積 11.53km²

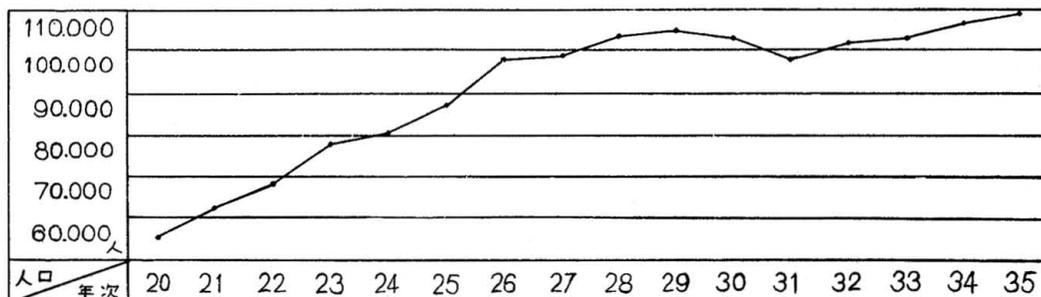
地区	西戸畑	東戸畑	三六	中原	沢見	浅生	牧山	天籟寺	大谷	鞘ヶ谷	一枝	八幡製鉄地	計
面積(%)	4.4	3.1	3.2	7.6	8.9	5.9	14.4	5.6	6.2	10.3	6.2	24.2	100%

2. 人口 108,708人

{ 男 55,502人
 { 女 53,206人

人口密度 1km²あたり 9,428人

人口の推移



3. 産業別15才以上就業者

第1次産業 2.3% 第2次産業 51.0% 第3次産業 46.7%

産業区分	農業	漁業 水産業 養殖業	鉱業	建設業	製造業	卸売業 小売業	金融保 険不動 産業	運輸業 通信	電 気 ガ ス 水道業	サー ビス 業	公務	分 類 不 能	計
戸畑区	(0.5%) 211	(1.8%) 808	(0.1%) 49	(15.5%) 7,055	(35.4%) 16,115	(20.2%) 9,214	(2.1%) 940	(7.8%) 3,551	(1.0%) 439	(13.4%) 6,116	(2.2%) 997		(100%) 45,496人
う ち ヶ 谷 地 区	23	7	—	174	1,185	199	18	73	1	159	21	—	1,860人

4. 職業別15才以上就業者

職業区分	専門的 技術的 職業従 事者	管理的 職業従 事者	事務 従事者	販 売 従事者	農 林 漁 業 従事者	採 鉱 従事者	運 輸 従事者	技 能 工 程 従 事 者 及 び 単 純 労 働 者	サー ビス 業 従 事 者	分 類 不 能 の 職 業	総 数
戸畑区	5.2% 2,353	2.2% 1,003	16.6% 7,547	12.8% 5,823	1.8% 824	0.2% 81	6.2% 2,837	45.1% 20,519	9.9% 4,508	0.0% 1	100% 45,496人
う ち ヶ 谷 地 区	68	5	365	118	25	13	105	1,074	87	—	1,860人

II 公民館活動の現況とその問題点

1. 地区公民館活動の現況

戸畑における公民館活動の上で特筆できることは、地域住民の要求その運動にまっけて、小学校区単位を規準にした公立公民館設置が実現したことである。しかもこの公民館運営についても、地区民の

❖ 各地区社会教育運営委員会ですすめられてきた主な事業

(昭和37年度事業より～38年度は新たに青少年部を設置)

総務部	○ 定例委員会 ○ 部長連絡会 ○ 公民館活動についての座談会 ○ 公民館開館記念行事 ○ 各種団体懇談会 ○ 自治委員との懇談会 ○ 社教だより(公民館だより)発行 ○ 社会教育活動アンケート調査 ○ 委員研修会 ○ 公民館まつり ○ 市政懇談会 ○ 予算の調整 ○ 団体指導者研修会 ○ 社会教育活動研究発表会
教養部	○ 部会 ○ 映画教室 ○ 成人教室 ○ 市政教室 ○ 五市合併研究会 ○ 時事解説講座 ○ 経済講座 ○ 料理講習会 ○ 同好グループ育成(ペン習字、茶道、詩吟など) ○ 青年と婦人のつどい ○ 短歌俳句募集 ○ 老人教室 ○ 青年講座 ○ 民謡教室 ○ 衛生講座 ○ 法律講座 ○ 青年学級(ユース・ルーム)の育成
厚生部	○ 部会 ○ 盆踊り ○ 親子ハイキング ○ 地区演芸大会 ○ 施設・史蹟めぐり ○ 初日を拝む会 ○ 新年カルタ会 ○ 囲碁・将棋大会 ○ 地区歌合戦 ○ フォークダンス・スクエアダンスのつどい
社会部	○ 部会 ○ 中学生会結成 ○ 中学生会育成のための座談会・研究会 ○ 草花講習会 ○ 子供会育成者研修会 ○ ラジオ体操 ○ 年末年始新生活運動 ○ 生活改善講習会 ○ 青年のつどい ○ 青年団育成のための研究会 ○ 街を明るくするための座談会 ○ 中学生のためのレクリエーションと話し合い ○ 新生活運動推進のための座談会

各層代表で構成した、分館運営委員会によって自主的運営への努力がなされている。同時に活動面についても分館運営委員が地区社会教育運営委員会委員（各校区毎に地区の社会教育諸活動推進を目的に自主団体として設置されている）をかねて、公民館の事業活動を推進させている。

2. 活動をすすめる上での問題点

地区公民館活動が展開されるとき、いつもとりだされる課題は「地域住民の要求を活動の中にどう具体的に吸いあげるか、～」住民の生活課題に密着した活動と公民館経営のあり方、についてである。この課題をヒモどくためには、そのとらえ方として、次の点が戸畑に共通した問題としてあげられている。

- (1) 区内の住民構成において、その職業構成の面で、賃金所得世帯が全市民の79.7%を占めている。
- (2) 先住住民層と新入住民層の住民意識のとけ合いがうまくいかない。（とくに団地住民と一般居住地域住民とのふれ合いが少い点。）
- (3) 昔から戸畑は、通り抜けの街と言われてきたことからもうかがえるように、会社の転勤、転出などの移動人口を多くかかえている。

このような実態に、どのように対処して活動をしていくか——これが今後とも大きな問題点である。

3. 運営上の問題点

- (イ) 先述したように、公立公民館は住民の努力で出来上がったが、公民館の人的体制（専従職員の配置）が実現できないまま今日に至っている。（現状は、分館長、分館主事が非常勤職員。管理人を常勤準職員としておく）
- (ロ) 地区の公民館事業は分館運営委員会（地区社会教育運営委員会を兼ねる）に総務部・教養部・社会部・青少年部を設け、その部活動として推進されているが、運営委員の任期が1年であるため、毎年メンバー・チェンジが激しく、このため豊かな経験と手腕を要する事業遂行にしばしば障害がおこる。
- (ハ) 住民の生活文化向上のセンターとして、門戸を開いている地区公民館として、これを利用する住民層が、一部に限られている傾向がある。（公民館遠隔地域や団地に対する対策）
- (ニ) 中央公民館は別として、地区公民館の設備がまだ充分でない。住民に対する学習機会の場を、すべての面で完全に提供するためにも、早急な対策が必要である。
- (ホ) 公民館行事のマンネリズム化を防ぐためにも、もっと公民館を住民の生活感覚から出発する、気軽な場所として考え直したい。

Ⅲ 問題解決のための努力

1. 中央公民館の機能を拡大することを方途として、地区公民館のあり方を再検討し、中央と地区の機能的な結びつきと同時に、地区公民館としての立場から、地区の実状にたった活動推進体制をすすめる。

そのための施策として

- (イ) 成人教育（とくに成人男子）、婦人教育（婦人学級の実施）青少年教育（青年学級や団体育成）などの対象別社会教育の場を工夫，研究して，積極的にすすめる。
 - (ロ) 地区公民館利用人口の増加を目指して，公民館を利用の場とする，各種成人グループの育成をはかる。
 - (ハ) 地区内の社会教育関係団体はもとより，各種団体との連絡協調を密にして，地域における総合的社会教育の推進に努める。（公民館における各種団体こん談会や，年齢層毎のこん談会を通じて，とくに新生活運動の展開を中心に）
 - (ニ) 地区公民館事業推進にあたって，社会教育主事の直接指導と助言の機会を多くする。
 - (ホ) 地区内の実情把握と，地区民の意識づけをはかるため，計画的な調査研究活動を年間事業計画にとり入れる。
2. 地区住民の公民館活動に対する，積極的参加を促すため，住民のなかからのボランティアの養成に努める。
 3. とくに公民館関係者（分館運営委員その他）の研修を強化する。――各種研修会の実施（地区社会教育運営委員研修会一年3回，同上部長研究会一年2回，分館主事研修一年3回，この他地区毎の委員研修や講習会の開催）
 4. 地区公民館施設，設備の拡充運動の展開 市当局に強力に要請するとともに，一方市だけに頼らずに地区民の手で購える備品等については，地区に対する呼びかけの中で拡充をはかる。
 5. 地区公民館の専従職員配置を強く働きかける。

IV 公民館施設，設備の果たした役割

1. 戸畑における地区公民館設置の経過

- イ，昭和26年～住民の自主組織による，地区社会教育運営委員会が校区単位に誕生，当時公民館が地区になかったので，学校施設解放の社会教育諸活動をすすめる。
- ロ，この活動の進展に伴って，公民館の必要性が痛感されるに至り，各地区社会教育運営委員会の主導で，地区民に公民館設置に対する要望がたかまり，市に対する設置運動が起こった。
- ハ，その結果，市でもこの要求を認め，昭和28年，最初の地区公立公民館として36公民館が竣工，以来昭和35年に浅生公民館が設置されるまでの間，市内各校区ごとに11館が設置された。

2. 地区公民館が果たした役割

- イ，地区民の強い要求から生れた地区公民館の設置状況が，人口1万未満に対して1館の割り合いであったため，地区民の利用の立場からは理想的で，公民館利用人口は，社会教育面だけでなく，一般市民の各種会合等の利用で激増している。
- ロ，地区公民館設置の経過からも分るように，地区民の熱意と要望に支えられた公民館であるだけに，運営や事業の中心母体も地区民の自主性に委ねられており，われわれの公民館としての愛着が，すべてに活かされている。

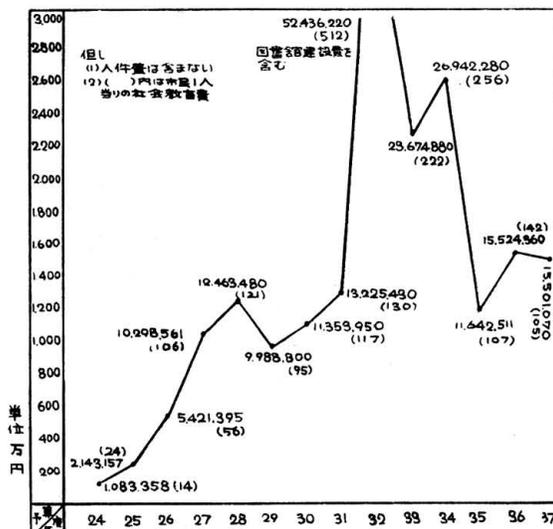
ハ、公民館建設にあたっては市費以外に相当額の地元負担額が拠出され、これが地区民の力を合
せればできるんだという、具体的な実績の根拠になり、市民としてあるいは地区住民としての
意識結集のために効果があった。

ニ、地区民に親しまれる公民館であることを標榜して、設備面の努力や（卓球台の設置その他）
プログラムの提供（地区民レクリエーションの場としての提供）に意を配り、常時気軽に出
入り出来る公民館として、認識されてきた。

V 今後の課題と抱負

1. 総合的社会教育推進のための努力の一環として、地区公民館建設に結集した力を、さらに博物館、
美術館、青少年教育施設などの各社会教育施設の設置へ働きかけたい。
2. 地区公民館専従職員の早期実現とともに、運営機能の中心となるボランティア養成のための、
機関設置をもちたい。
3. 住民自治の原則と併せた、行政体制の協力関係の改善を（とくに行政の各分野のセクトを）望ん
で、住民の生活文化向上という大命題に即した、公民館活動の展開をはかる。
4. 住民の横のつながりを多核的にとりあげ、各種の集団組織の育成とともに、点から線、線から網
に至る公民館活動にしたい。
5. 北九州市の誕生に際して合併による行政能力の低下を生じないように、とくに社会教育行政に対し
てこれを強く要請し、市民に対するサービス行政のあり方を市民の立場から具体的に働きかける。
6. 公民館費を含めた社会教育予算の増額を運動する。
7. 東京オリンピック開催を控えて、国民道徳昂揚のための公民館の役割りを検討し、その実践運動
を起こす。

社会教育費の移りかわり(決算)～(旧戸畑市)



事例 3. 久留米市西国分公民館

主 事 山 田 和 作

1. 地域の概況

① 公民館の所在地

久留米市諏訪野町1977

市の中心部よりやや東南部市街地住宅地および引揚者住宅地その他

国道3号線を挟んだ諏訪野町野中町西町川北および国分町川原の一部（旧国分村の一部）

② 世帯数 2,438

③ 人口 10,785

④ 職業々態の概要

自動車修理販売および関連事業を主とした中小企業

公務員会社員等の住宅地

工場労働者と兼業農家および植木業

零細農業および商業者

⑤ 地域の特徴

イ、土着の人が少く、各地から集った人達が多い。

ロ、自動車関連業が軒を連らねて、発展してゆき、小工場が建てられつつある。

ハ、引揚者の住宅団地が2ヶ所ある。

ニ、文化の水準は高く、教養に富んだ人が多いが、生活程度には大きな格差がある。

ホ、進学する青年が大部分である。

2. 地域社会の変貌と運営上の問題点

① 社会教育の浸透 公民館活動の困難

運営機構 趣旨行事伝達のパイプをどうするか。

② 地域青年団の結成拡充の困難

イ、青年の大部分は進学し、あるいは転出する。

ロ、夜勤時間外労働で、休日が一定しない。

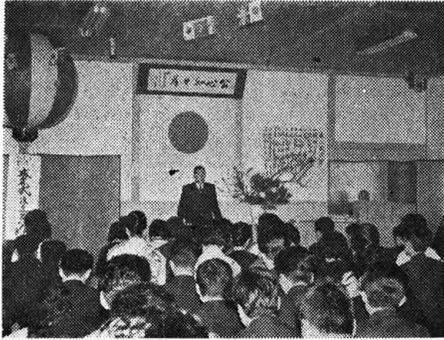
3. 問題解決のため行なっている行事と活動成果

① 自治懇談会の開催

校区内180の自治委員に集ってもらって市政あるいは自治体の研究をし、公民館活動の理解協力をすすめる。

② 環境衛生の徹底

引揚者住宅が急造で、排水不良、非衛生的で例年赤痢の発生を見たので、子どもの健康を守るた



(西国分公民館の成人式)

めに全校区の環境衛生の向上のために婦人会が立ちあがり、噴霧器薬剤を共同購入して撒布を行ない継続3年におよんでいる。責任協同相互扶助等郷土意識郷土愛の精神が強くなってきている。

③ 慶弔規定の実施（喜びも悲しみも共にわかちあう）

イ、振興会々員の中に、国および県から表彰された人々があつた時は記念品および表彰状を贈る。

ロ、振興会々員の中に、死亡した人があつた時

は、館長振興会長は弔辞を読み香典を供える。

④ 新年懇親会の開催

校区内有志80名が参加して、懇談し親交をはかり地域の発展に資する。

⑤ 公営結婚について

厳粛、莊嚴の結婚式の司会、簡素な披露宴の世話をする。新しい人生の出発は公民館からのキヤッチフレーズで実施している。

⑥ 子ども会の結成拡充について

イ、小中学校児童・生徒（中学2年以下）の校外生活の指導不良化防止の一方法として、特にスポーツ、ソフトボールを奨励する。

ロ、子ども大会で、童話を聞き、優秀映画を見る。

ハ、夏休みのキャンプの実施

⑦ 体育レクリエーションの開催

野球大会 校区民体育大会 卓球 ソフトボール大会 盆踊大会

⑧ 各種講座講習会の開設開催

イ、生花講座 毎週火曜日 19時 池ノ坊

ロ、謡曲講座 毎週金曜日 13時 観世流

五流謡曲大会 年1回

観世、宝生、喜多、梅若、金春

ハ、詩吟講座 毎週火曜 10時

ニ、編物講座 毎週水曜 13時

ホ、料理講習 正月料理その他

ヘ、墨絵講座 毎週木曜 13時

⑨ 施設利用 各種研究集會に会場提供

老友会、自動車整備講習、同無線士講習、民謡舞踊講座（月3回）その他。

⑩ 心配事相談

5. 今後の課題とホープ

- ① 建物の増築
イ、図書回覧室
ロ、婦人の室
ハ、倉庫
- ② 心配事相談の拡充、結婚相談まで
- ③ 公営葬式の構想
- ④ 善意銀行の設立
- ⑤ 郷土地域発展のための経済的連繋の確立

II 都市周辺及び近郊町村

事例 1. 小倉区東谷公民館

館長 宮崎 上

1. 地域の概況

東谷地区は、小倉の都心部より南へ約10Km、東西約4Km、南北約7Kmの周囲を山に囲まれた近郊農村地帯で、東にカルスト地形で有名な景勝地平尾台がある。交通は南北に国鉄日田線が通り、それに平行して小倉、田川間のバスが走っており、比較的便利である。この地区は戦後昭和23年に小倉市に編入されたところで、10地区に分れており、現住世帯1,438戸、人口6,479人を数えるが、農家はその35.8%515世帯にすぎない。

他の世帯の多くは、地元のセメント工場や都心部への通勤者で構成されている。職業別戸数を示すと次表のようになる。

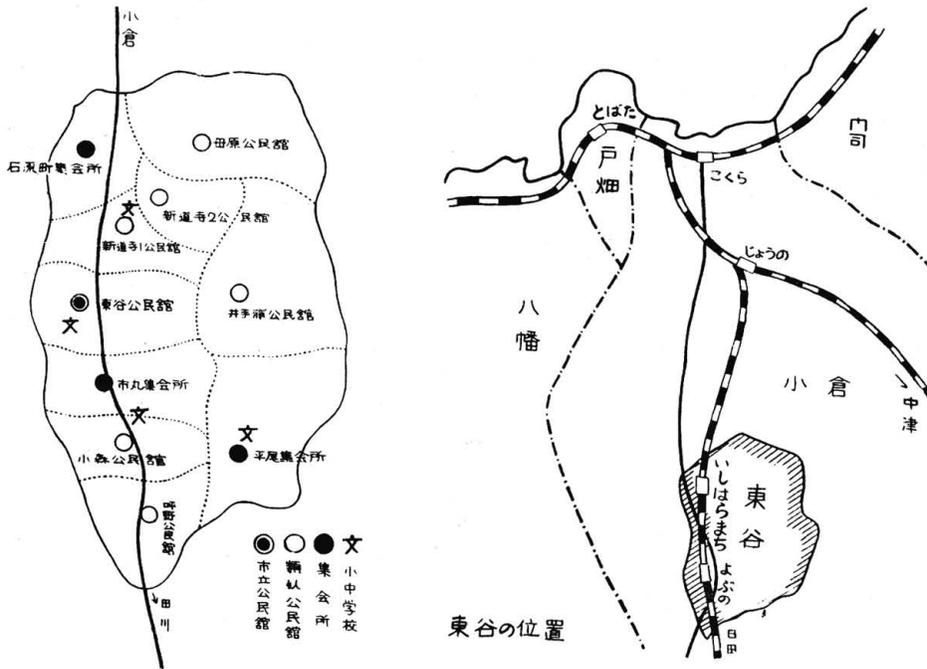
専業農家	兼業農家	建設、鉱業等	商 サ ー ビ ス 業	官庁、会社関係	そ の 他	計
226	289	28	97	758	40	1,438

学校教育施設としては中学校1、小学校2、保育園2を有し、また社会教育施設も市立公民館1、各地区ごとに類似公民館または、集会所が整備され本館を中心に分館活動が進められている。とくに昭和35年に東谷農協に設置された有線放送施設が、地域の生活文化向上のため大きな貢献をしていることも見逃せない。

次に産業としては、農業のほか平尾台のカルスト地帯に無尽蔵に埋蔵されている石灰石を原料としたセメント工場、採石所を有し、呼野、小森、市丸の三地区はここで働く人が多く専業農家は漸次減少している。昭和34年度農業センサスによると農家戸数は554戸で専業は107戸にすぎず、それも田原、

井手浦，平尾台に集中している。農産物としては水稻のほかは春夏蔬菜（白菜，かんらん）を多く栽培している。また最近では農業の構造改善の意欲が盛んで，果樹とくにブドウの新植はめざましく，昭和36年に8町余，昭和37年には4町と逐次拡大され，将来は40町歩に亘る計画がなされている。

東谷地区の将来は，北九州市の中心である小倉の背後住宅地として，さらには無尽蔵な石灰石資源を背景に工業地として発展を続ける一方，農業経営もより高度に高度約化されて成長していくものと期待されている。



2. 公民館活動のこれまでの歩み

- 経営上の問題（地区公民館と類似公民館との関係）
- 事業の内容

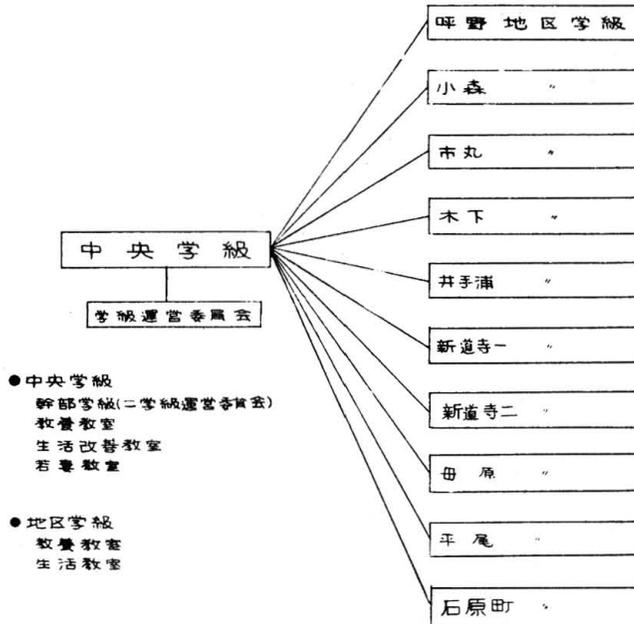
昭和38年度事業計画一覧表

対象	目的	実施内容	
一般成人	地域における一般成人の相互連携と教育及び生産の向上をはかる	① 映画教室の推進 ② 体育レクを通じての明るい町づくり ③ 産業教育の推進 ④ 趣味のつどい	
婦人	婦人学級によるグループ学習の強化	① 中央学級（指導者研修を兼ねる） ② 地区学級	
青少年	青年	地域青年リーダーの育成とグループ学習の育成	青年学級の実施
	児童	子供会の健全育成をはかる	① リーダー研修会 ② こどもまつりの実施

◦ 施設・設備の概況

◦ 婦人学級の体系、組織の内容と活動状況

東谷婦人学級運営組織一覧表



3. 今後の問題

- 類似公民館の分館化
- 地区公民館の施設、設備の充実
- 予算と指導陣容の強化

事例 2. 筑紫郡大野町公民館

社会教育主事 白 壁 和 弘

1. 地域の概況

(1) 人口及び世帯数

年度	人口	世帯数
35年	16,277	3,982

36年	17,399	4,227
37年	18,645	4,537

(2) 職業構成

農業	636	商業	450	工業	31
給与者	2,985	その他	435		

(3) 交通機関

鹿児島本線, 水城, 白木原駅
西鉄大牟田線, 下大利, 白木原駅
国道三号線

2. 公民館活動推進上の問題点

(1) 地域の変ほう

- (イ) 戦時中軍需工場が町内及び周辺町村に建設された。
- (ロ) 終戦と同時に駐留軍が進駐した。
- (ハ) 基地の町と化した。
 - 町内にハウスが建築された。(現在 400戸)
 - 昭和25年に春日原ベースに集結。
 - 外人相手の商売が多くなった。
- (ニ) 大福岡市のベットタウンとなった。
(毎年 250~300戸建築)
- (ホ) 農耕地の減少

	住宅地	工場その他
35年	5町	7反
36年	4町5反	2町6反
37年	4町5反	3町

- (ヘ) 宅地造成が盛んである。
45町歩

(2) 推進上の問題点

- (イ) 転出入が甚だしい。

	35年	36年	37年
転入	635	794	691
転出	345	482	388

- (ロ) 人間関係が出来にくい。
- (ハ) 団体組織が弱体化している。
- (ニ) 設備が不完全である。

- (困) 地域が恵まれすぎている。
- 交通が便利である。
 - 大福岡市をひかえている。
 - 裕福である。

3. 公民館の活動内容

(1) 子ども会の育成

(2) 学習活動

婦人学級

青年学級

成人学級

(3) グループ活動

英会話、基地周辺の特殊性を生かすため

写真グループ

コーラスグループ

謡曲グループ

(4) 社会体育の推進

- 剣道（剣友会）
- 柔道
- 卓球
- 町内職場対抗野球
- 町民運動会

（謡曲グループの活動）

(5) 分館（部落公民館）の育成

施設の整備—施設整備負担条例の制定

分館育成費 1分館 15,000

モデル分館の設置

生活改善、結婚改善

子ども会の育成

都市近郊における農業経営の研究



（婦人学級の調理実習の一場面）



（謡曲グループの練習風景）

4. 公民館の果たした役割

(1) 施設

- (イ) 各種団体の連絡調整の場となる
- (ロ) 団体活動の場となる
- (ハ) 学習活動の場となる

(2) 設 備

(イ) 登山用テント 10張

子ども会野外活動

青年団野外活動

家族キャンプ

(ロ) ステレオ

レコード鑑賞会

青年団ダンス講習

(ハ) 映 写 機

学習活動に利用

子ども会活動に利用

(ニ) 図 書

5. 今 後 の 課 題

(1) 設備の充実

教具教材の充実

公民館の雰囲気を作る

近代的な設備の充実

(2) グループ活動の推進

(3) 実技をとまなう活動の展開

(4) 指導者の充実

(5) ボランティアの獲得

Ⅲ 産 炭 地

事 例 1. 嘉 穂 郡 碓 井 町 公 民 館

主 事 野 見 山 友 司

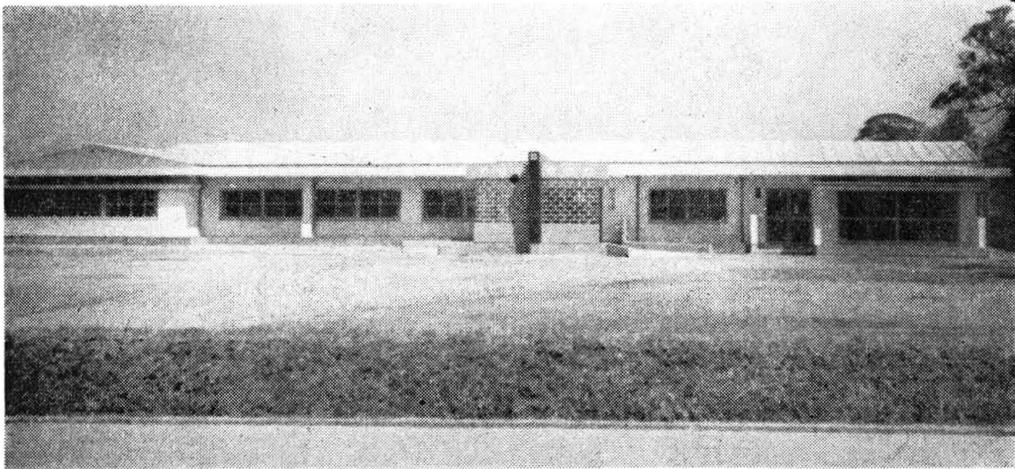
1. 地 域 の 概 況

1. 町の面積 8.41平方キロ

2. 人 口 9,464人

3. 職業別人口

農 業 3,239人



(昭和37年3月に竣工した碓井町公民館の全景)

鉱業	3,650人
商業	565人
その他	2,010人

2. 問題点

1. 貧困家庭の増大

保護家庭 (昭33.7)	68世帯
” (昭34.7)	86 ”
” (” 35.7)	124 ”
” (” 36.7)	243 ”
” (” 37.7)	318 ”
” (” 38.2)	347 ”

2. 青少年の町外流出

昭和37年度碓井中学校卒業生	248名
イ、高校及び各種学校入学	145名
ロ、県外就職者	51名
ハ、県内就職者 (除碓井町)	34名
ニ、町内就職者	4名 (男2, 女2)
ホ、家事従事	14名 (男10, 女4)

3. 農業構造改善と碓井町農業の実態

イ、農家戸数	512戸
ロ、1戸平均耕地面積	62アール
ハ、鉱業と農業	

ニ、專業農家戸数 約50戸

ホ、專業農家の経営の実態

- 普通作と果樹園芸
- 普通作と花卉園芸
- 普通作と酪農
- 普通作と肥育牛
- 普通作專業

4. その他

3. 問題解決のために

1. 児童生徒環境調査
調査数 1,005名
2. 零細企業に働く年少労働者の組織
3. 婦人の教育組織とグループの育成
4. 低所得者層の婦人のための学習
5. 産炭地振興と農業施策
6. 農民教育の課題とその解決のために

4. 公民館の施設と役割

1. 施設の現況
2. 過去1年間の利用実績
3. 利用グループの育成
4. 図書室の利用実績
5. 図書室の役割

5. 今後の課題

1. 施設設備の充実
2. 総合文化センターとしての役割
3. 町民すべての人々のために



(婦人実習室で料理の実習をする学級生)

事 例 2. 直方市中央公民館

直方文化連合会 うえ 上 はね 旬 忠

1. 地域の概況

(1) 世帯数 16,028戸, 人口 65,668人。炭都といわれた直方も, すでに市内より炭坑は消えさり, そして市周辺の炭坑もつぎつぎに姿を消し, 炭坑依存の市内商工業は最悪の事態に直面した。現在産炭地振興の波に乗り, 新しい工業都市に脱皮しようとしている。

(2) 農村地域においては園芸, 果実などの新しい栽培技術の導入によって, 多角農業への努力をつづけている。

2. 問題点

(1) 産炭地特有の深刻な市財政のしわは公民館事業によせられるため, 文化的な公民館活動にまで手がとどかない。

(2) 一般的社会状況として, 消費文化の発展は安直と便利が文化的なものとする傾向が強くなり, 生活において物質面と精神面の間に大きな開きができつつある。

3. 問題解決のために

(1) 問題点を要約すると, 生活における文化面を指導する公民館の事業は弱体化し, 住民自体も文化の本質を見失いかけていることである。この問題を解決するために多くの手段を必要とするが, その一方法として, 市社会教育課と直方文化連合会の共同企画によって「動く雑誌」なるものを, 公民館事業のなかに提供することにした。

(2) 直方文化連合会は昭和30年に直方市内18の文化団体と若干の学識者によって発足した。活動方針として「より美しく, 楽しく, 豊かな生活への向上」, すなわち生活文化の向上を目指していることが, 期せずして公民館事業のねらいと合致した。住民の生活の中にはいり, 膝をまじえて生活文化向上を話し合うため「動く雑誌」という体さいを取るようにした。昭和35年に発刊し現在第18号になっている。

(3) 「動く雑誌」とは一種の文化講演会で, プログラムを雑誌の目次にかえ, 内容は単位団体の特色を集めたものである。以下その内容を紹介する。

まずページをめくる人が司会者となる。

(イ) 表紙と美術のはなし。

筆者は筑豊美術協会が担当, ふすま全紙大の白紙に季節にちなんだ画をかく。そして「生活文化」という誌名をいれる。書き終ると生活の中における美術鑑賞についてわかりやすくはなす。

(ロ) はしがき。

筆者は文連の理事, 公民館職員, 社会教育課職員のうちから出る。雑誌の趣旨, 生活文化向上のあ

り方などをはなす。

(イ) 随 筆

家庭医学の場合は会員の中の医師が筆者。成人病の知識と予防、とくに精神衛生面を強調してはなす。

視聴覚の場合は直方映画鑑賞会から筆者が出る。テレビの見方など視聴覚を通じての家庭における話し合いの話題を提供する方法についてはなす。

(ニ) ホームカラーのページ

a. 「コスチューム・ショー」と「きものはなし」

学院の教師。まず生活における「おしゃれ」のあり方についてはなしをして、そのはなしの内容をショーにしてみせる。ファッション・ショーでなくて家庭に重点をおいた作品ショー。

b. 8ミリ映画上映

筆者は直方シネ8クラブの会員。会員が制作した、少年補導、鉄道危害防止、精薄児童育成などの作品を、趣旨をはなして上映する。テープによる発声版。

c. レクリエーション

筆者は、口若踊の場合は日若踊保存会、日本舞踊の場合は若柳流家元、コーラスの場合は直方合唱団よりそれぞれ出る。これらは来会者全員によっておこなわれる。

(ホ) 座 談 会

筆者と来会者との代表がはなし合う公開座談会。生活文化交流を通じて、その地域住民の問題をとりあげて討論する。

(ハ) あとがき。

はしがきグループより筆者が出て、しめくくりのあいさつをする。

(4) 所要時間は約2時間。開催地域の希望と筆者の出席不能とを勘案して、前記の内容の中から目次を作成する。筆者は無報酬。会場設備は地元負担。その他は市の負担。

4. 公民館活動の成果

(1) 「動く雑誌」は、内容を提供して住民を啓蒙することより、生活文化とはなにか、それを向上させるためにはどうすればよいか、ということを考える機会を与え、その手がかりとなるものを植えつけていくことに重点をおいている。

(2) このような機会にめぐまれぬ農村部の婦人層に重点を置いて提供したが、婦人学級の教科に組み入れたところもあり、再度開催の希望が多い。

(3) 本年の統一選挙に際して、公明選挙推進のための移動公民館と「動く雑誌」とを合流させて協力したが、来会者動員に成功し、しかも楽しい気分のなかで趣旨の徹底をはかることができた。

(4) 中央公民館および連合会で主催する文化行事に、動く雑誌を提供した地域からの参加者が多い。

5. 今後の課題とホープ

(1) 筆者たちが社会的に多忙なので、筆者を増加して強化し、提供回数の増加と内容の充実をはか

る。

- (2) 農村部重点を市街地に移行し、公民館活動のほか、職域進出をはかる。
- (3) 提供するだけで、その効果を確認していないので、これが方法を考えて実施する。

IV 農山漁町村

事例 1. 築上郡吉富町公民館

主 事 是 木 光

1. 地域の概況

吉富町は県の東南部にあり大分県と境を接する。町村合併をしない5.5km²の狭い平坦地で1,606世帯、7,180人の町で就業状況は農業804人、製造業691人、卸小売業395人、サービス業311人、漁業水産業285人、建設業187人、運輸通信業134人、公務77人等である。

町の中を国道10号線、日豊本線が東西に走り大分郡中津市に隣接し交通文化には恵まれている。

公民館は敷地632坪、建坪200坪で昭和36年4月竣工し、町のほぼ中央に位置し最遠の部落からでも徒歩約15分位の位置にある。職員は館長（専任）主事（教育委書記兼任）主事補（女）書記（女）管理人（女）の5名である。

社会教育費の38年度当初予算は3,125,990円で町予算の5.9%に当り住民1人当たり約435円である。

2. 問題点

(1) 地域社会変ぼうの実態

イ、中卒だけで在町するもの皆無、高校卒男子で就農するもの皆無

ロ、専業農家は部落に数世帯

ハ、商店は経営に四苦八苦の状態

ニ、近海漁業は振わず漁村の青年は他に職を求めている。

従って昼間家庭にあるものは老人、女、子供だけである。

ヘ、しかも当町は純農村ではなく職業構成が上記のように複雑である。

(2) 問題点

このような実態に即し町社会教育の対象の重点を誰に向けるかが問題である。婦人は家庭経営者で子女教育の責任者の地位にありながら広い社会に接する機会は男子に比べて少なく、又老人は民主化の阻害になりがちな見地から、しかも両者は比較的把握易いので、これに公民館活動の重点を置き次ぎのような事業を行なっている。

すなわち

青年学級 4 学級

中央婦人学級 1 学級

老人学級 1 学級

各種クラブ、グループ活動 10の外

新生活運動、スポーツ教室、社会体育

ボーイスカウトの指導等である。

その他公民館は各種社教団体の指導助言及びその事務局を担当している。

又公民館の新築に伴って各種団体機関の集会の場として公民館の利用度はとみに高まって来た。

このような現状であるので職員が昼夜兼行寧日なく働いても事務と人との応待に多くの時間をとられ、社会教育の計画、指導、助言に当て得る時間が充分でない現状である。従って職員は業務の必要にせまられ自発的習慣的に時間外並びに休日に無報酬で勤務にあたることがしばしばである。公民館が町民の要請に応じて魅力ある教育の場として町の文化を向上していくためには質のすぐれた職員を増置する必要がある。

又、各種学級講座、講習会等の講師助言者は小、中学校教諭、県出先機関の職員等を委嘱しているが時間的に支障のある場合もあり又、教育内容が学級生の要求にそぐはないこともあり、ここに講師助言者の問題がある。

3. 問題解決のために

職員の数と質の向上及び給与について社会教育の助言者として社会教育主事を（当町は人口1万以下で未設置）公民館主事の事務を軽減して教育活動が充分出来るよう主事補の増員を町に要求しているがまだ実現していない。

公民館職員は社会教育という専門的な職務に当るのであるからなるべく専門職に相当する者を充てるべきである。

すなわち社会教育の重要性に鑑み公民館が地域住民の文化センターとしての使命を果たすためには公民館職員は小中学校なみに専門職とし、その給与は国又は県で負担するようにすることが望ましい。

4. 公民館の施設、設備の果たした役割

以上のような問題点はあるが公民館が町の文化センターとして果している役割は大きい。その2、3について述べると

(1) 教育活動の場として

(イ) 吉富町中央婦人学級

昭和36年公民館新築とともに婦人会幹部を学級生として開設した婦人学級は本年度で3年を迎えるが学級生が婦人の使命の重要性と学習の必要性を自覚して支部（部落）のリーダーとなり学級又は学習グループをつくり部落の状態に即応した活動を開始し各部落の生活文化向上の指導に当たっている。

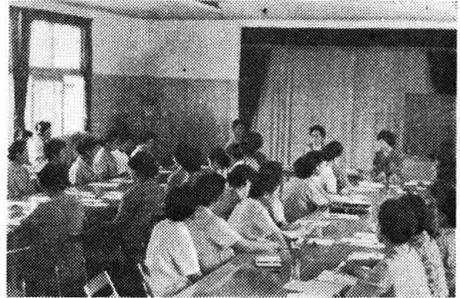
又、実益を収め教養の喜びを味わう目的で一般婦人を対象とした料理、生花、短歌、茶道、謡曲は8グループ230人で各グループとも毎月2回以上年間190日の実習日をもつ盛況である。

(ロ) 青年学級

男子青年の人員は少ないが男女学級生とも一般教養に又、生活実習にグループ活動に設備の整った公民館における青年学級を楽しんでいる。昨年は漁村青年学級に沿岸漁業と海苔の養殖をとりいれ豊前水産試験場より講師を招聘した学習は有効であった。

(ハ) 新生活運動の拠点として

冠婚葬祭の簡素化の一端として開始した公民館結婚及び寿会（老人学級）で運営している公民館葬祭具は何れも町民の利用度は極めて高く因習打破、時間並びに冗費節約の目的を果す外町民に対し公民館のPRの役に立っている。



(吉富町中央婦人学級の学習)

(ニ) 図書部の活動

図書室は閑静で明るく約3,200冊の蔵書があり図書室で読書を楽しむ外、読書会員35名では年間約900冊の書籍を持帰り家庭での読書を楽しみながら教養を高めている。

(2) 娯楽の場として

公民館の施設、設備と職員のサービス精神による公民館は町民の娯楽、憩の場として親しまれている。

(イ) 公民館にはバレーコート運動場がありピンポン、野球用具、バドミントン等の運動具を備え体育レクリエーションの場として町民に親しまれている。

(ロ) テレビ、ラジオ、ステレオ、16ミリ映写機、8ミリ撮影、映写機等の視聴覚器材は教材としてだけでなく娯乐的にも充分利用されている。

(ハ) 囲碁クラブ

会員50名からなる囲碁クラブは毎週土曜日を定例日として囲碁を楽しんでいる。

5. 今後の課題とホープ

当町は幸い完備した公民館の施設、設備を有し町当局は社会教育の重要性を十分認識し、町民また、社会教育の必要性を自覚して向学心は高まりつつある。

今日最も欠けているものは公民館職員の数と質及び学級講師陣の貧弱さである。これらが充足したならば懸案の成人学級も開設出来ようし当町社会教育は更に躍進し公民館は町民教養の場とし又娯楽の場としての任務を十分に果し得るものと期待している。

事 例 2. 朝倉郡杷木町公民館

1. 地域の概況

昭和26年4ヶ町村合併して発足

戸数 2,309 人口 12,600人

地域内学校

小学校4, 中学校1, 幼稚園2, 保育所4, 県立高校1

町内に原鶴, 林田等の温泉があり, 産物の重なものは米麦の外, 果樹園芸, 葉煙草, 椎茸, 竹製品等の生産がなされている半高半農の地域で零細農家地帯である。

2. 問題点

- (1) 合併後12年人口が減少している。
- (2) 地域の封建性が強い。
- (3) 兼業農家が増加し青年が町外に職を求めて出ているため, 青年が少なく, 従って活動も非常に困難である。
- (4) 家庭の民主化, 地域社会の建設のために婦人, 青年等が真剣な努力を続けているが成人層の協力がなく困難な点が多い。
- (5) 1人1人の住民に立派な市民性を作り上げるためには, 分館(部落)の自主的活動を盛り上げなければならない。

3. 問題解決のために過去どんな努力をしたか

共通の課題を解決しあるいはこの課題解決にとり組む事によって, そのこと自体の解決と共に, 分館活動を促進する方向に公民館の重点目標を決めて努力した。

(1) 分館公営結婚の実施

昭和28年度より部落分館に於てこの公営結婚式を行なうよう指導し推進した。

方 法

分館長が司会をし, 婦人会が料理を作り女子青年が奉仕する等部落の分館活動の一環として結婚の簡素化を図った。

成 果

イ, 2年余で全町に広まった。

ロ, この結果部落分館の備品, 汁器等が整備され, 分館の施設が充実していき, 施設が充実するとともに, 分館の活動が促進され区長兼任であった分館長が全部専任となり活動分野が広められた。

ハ, 分館結婚式が実施されるにつれて, 婦人会の学習活動が始まり, 成人の集会が多くなってきた。

(2) 青少年教育

昭和29年より青少年の育成指導を重点目標として進んだ。

◎青年学級への努力

◎青年団の活動促進

町ぐるみ子供会の育成

理 由

- (イ) 青少年の指導育成が町民全体の共通課題として最も重要な問題となってきた。
- (ロ) 青少年の育成は子供会を取り上げることが最も効果的であると考えられたこと。
- (ハ) 子供会育成を通しての成人教育が社会教育の近道であると考えられる。
- (ニ) 今日の子供の育成は親だけでやる段階ではなく、全社会が手をつないでよりよい環境をつくるようにしなければならないと思われる。

方 法

従来PTA活動として行なってきた親子常会を公民館活動として部落分館の責任に於て子供会活動を展開する事にした。

組 織

○ 育 成 会

部落毎に育成会を組織して全戸加入としPTA、青年団、婦人会等を全部組織の中に入れた。

○ 子 ども 会

中学生を加え、小中一本とした。尚育成会長は必ず部落分館長が兼任することにした。

○ 指 導 者 養 成

指導者養成のため次の方法をとった。

- ・ 指導者講習会 年5回
- ・ 子供会リーダー講習（宿泊1，他1）
- ・ テキストの作成配布（現在8集印刷配布）

現在活動（特別活動）

- (1) 花いっぱい運動 36年4月より
- (2) あいさつ運動 37年9月より
- (3) 人形劇コンクール37年度実施済み。

成 果

- (イ) 成人男女各層の公民館への協力体制が非常に強くなってきた。
- (ロ) 公民館分館（部落）の必要性が強く認識され、分館の新築、増改築等施設、設備の充実が促された。結婚改善などをすすめてできた分館（部落）を加えると17分館が新築された。

本 館 建 築

本館は町民の積極的な要望により建築された。

- 結婚改善、子供会など共通課題ととりくみそれらを中心として、社会教育を推進してきた結果、

本館建築の声が町民の間にもり上って37年4月町民熱望の本館が落成した。

○ 本館の活動としては過去1ケ年間の実績だけであるが、特に本館建築後1ケ年間の成果としては、

(イ) 子供会や、分館活動の指導者養成のためにフルに使用された。

(ロ) 婦人学級、青年学級等がスムーズに行なわれた。

(ハ) 中学生、高校生等が非常に利用するようになった。中でも図書、体育施設などが多く利用された。

(ニ) 文芸、登山、俳句、短歌、スポーツ、写真等サークル活動の利用が多くなった。

今後の課題とホープ

○ 本館の施設をフルに活用した教育計画を確立して活動する。

○ 施設、設備を充実して之が利用を図る。

○ グループ活動を活発にしてその横の連絡をはかる。

○ 町内の各種機関、団体の連絡調整を図る。

○ 産業の振興をはかる。

公 民 館 役 職 員 表

市郡名	被表彰者氏名	所属公民館名	役職名	公民館役職就任期間
福岡市	堺 謙太郎	福岡市和白公民館	主 事	S25.4~38.4
(北九州) 門司区	荒 田 義雄	門司区太刀の浦公民館	館 長	S28.4.1~38.4
小倉区	木 村 正	小倉区北方公民館	館 長	S26.7.1~38.5
八幡区	佐々 菊子	八幡区中央公民館	運営審議員	S26.10~38.4
戸畑区	北 川 真隆	東戸畑公民館	館 長	S36.4.1~38.4
直方市	西 尾 伝八郎	新入川東公民館	分館 長	S30.9.18~38.4
田川市	原 田 充 恵	夏吉公民館	主 事	S32.4.1~38.4
飯塚市	神 山 久 雄	飯塚市中央公民館	運営審議員	S28.10.1~38.4
山田市	宮 田 良 実	山田市中央公民館	副館 長	S28.4.1~38.4
八女市	中 野 政 人	清水町町内公民館	運営審議員	S27.9.1~38.4
筑紫郡	茅 野 長 治	大野町公民館	館 長	S28.3.10~38.4
宗像郡	花 田 作 生	津屋崎町公民館	主 事	S28.4.1~38.4
遠賀郡	中 山 司	芦屋町公民館	主 事	S24.10.3~38.4.5
嘉穂郡	赤 松 寅 七	嘉穂郡公民館連絡協議会	郡公連会長	S30.4.30~38.4
糸島郡	牧 園 修 三	志摩村公民館師吉分館	主 事	S26.8.10~38.4
八女郡	栗 秋 久	星野村公民館	主 事	S23.3.20~38.4
田川郡	荒 田 伝	糸田町公民館	主 事	S26.4.1~38.4

第11回福岡県公民館大会役員名簿

1. 大会名誉会長

福岡県教育委員会 教育長 溝 江 三 治

2. 大会会長

福岡県公民館連絡協議会会長 守 田 道 隆

3. 大会副会長

福岡県公民館連絡協議会副会長 森 武 雄
同 柿 原 種 雄
北九州市教育委員会 高 木 孝 詮

4. 大会参与

北九州市長	吉田 法晴	福岡県公民館図書部協議会長	吉村 清
福岡県都市教育委員会 連絡協議会会長	深見 平次郎	福岡県町村教育委員会 連絡協議会会長	碓崎 秀一
福岡県PTA連絡協議会長	田上 文次郎	福岡県郡市婦人会連絡協議会長	内野 梅子
福岡県青年団協議会長	松崎 七生臣	福岡県新生活運動協議会長	鵜崎 多一
福岡県視聴覚教育協会会長	高村 正三	福岡県貯蓄推進委員会委員長	吉田 雄三
福岡県公明選挙 推進協議会会長	根津 菊次郎	福岡県社会福祉協議会長	守田 道隆
福岡県農協中央会会長	森部 隆輔		

NHK福岡放送局, RKB毎日, KBC, 朝日新聞西部本社, 毎日新聞西部本社, 西日本新聞社, 夕刊フクニチ新聞社

彰 推 せ ん 一 覧 表

推 薦 理 由
①社会教育主事を兼務し、現場の実践に理論的体系をつける。②青少年教育、町内公民館の育成に功績
①教育文化環境に恵まれない当地区に公民館を建設 ②館長就任以来社会教育に挺身した。
①昭和26年より11年間にわたって北方公民館内における青少年教育に努力した。②青年団の組織化に尽力しこれを更に青年学級の学習体系に発展させ公民館活動を展開し顕著な成績を収めた。
①八幡市運営審議員兼社会教育委員として11年余関係した。②婦人会長として社会教育の振興に寄与
①27来以来分館長として地域の社会教育振興に貢献 ②青少年団体の育成 ③公民館の建設に功績
①公民分館の創設・施設の建築を実現 ②地域の調査 ③子供会・老人会の結成に功績
①婦人会、婦人学級の育成指導 ②結婚改善の推進 ③環境衛生に功績
①28年より運営審議員として企画に参劃 ②文化団体の育成 ③PTAとの連携い確立に功績
①28年より中央公民館副館長として館長を補佐 ②地区公民館の運営に助言と指導を与えた功績
①町内公民館長として体育、スポーツの振興に寄与 ②中央公民館建設の与論作りに努力
①24年より公民館の育成に当り28年新築落成、同年県教委表彰 ②38年分館建築補助条例を制定
①28年青年学級専任主事となり青年学級の経営に尽力 ②32年町村合併で公民館主事となり社会教育の振興に寄与
①24年遠賀村初代主事18地区の分館を開設させる。②28年芦屋町主事として基地の青少年、婦人教育に貢献
①町長として庄内公民館の建設を実現し職員の充実につとめる。②郡公連会長として郡内町村を率先指導その功績は大きい。
①師吉分館主事として本館と連携いし産業活動に尽力 ②分館の建築 ③青年婦人教育に功績
①分館活動の推進、施設設備の充実につとめる。②へき地青少年教育、社会体育に貢献
①26年より地区分館の建築に努力 ②子供会活動、青年、婦人学級、文化団体の指導育成に貢献 ③37年真岡分館の県公連表彰を実現させた功績

5. 運 営 委 員 会

委員長 福公連事務局長(県社教課長) 樋水 速太	委 員 福公連事務次長(同補佐) 高松 三綱
委員 北九州市教務部長 江藤 良丈	“ 福公連理事(福岡市) 長井 盛之
“ 福公連理事(北九州市) 井上 三郎	“ “ (北九州市) 徳永 正幸
“ “ (大川市) 木下 正美	“ “ (早良郡) 津上 謙
“ “ (三池山門郡) 今村 雅美	“ “ (田川市) 荒川 夏彦
“ “ (粕屋郡) 的野 章信	“ “ (嘉穂郡) 赤松 寅七
“ “ (鞍手郡) 野津 五郎	“ “ (教育庁出張所) 秋吉 紋吾
“ “ (行橋市) 野村 敏晴	“ “ (三井郡) 田中 正忠

6. 大会準備委員会

委員長 北九州市社会教育課長 井 上 三 郎
委員 “ 門司区社会教育課長 関 戸 治 雄
“ “ 小倉区社会教育課長 野 口 文 利
“ “ 八幡区社会教育課長 徳 永 正 幸
“ “ 若松区社会教育課長 和 田 喜 代 治
“ “ 戸畑区社会教育課長 日 野 保
“ “ 戸畑区中央公民館長 河 村 明
“ “ 社会教育主事 井 上 禎 久
“ “ 社会教育主事 熊 本 作 己
“ “ 社会教育係長 滝 村 豊
“ “ 青少年係長 田 村 実 男
“ “ 門司区社会教育係長 村 上 仁 雄

優 良 公 民 館 表

郡市名	公民館名	公立 類似	所在地	館長名	世帯数
福岡市	当仁公民館	公	福岡市東唐人町堀端1	行正喜雄	5,450
北九州 市	門司区 錦町公民館	類似	北九州市門司区錦町4の3	吉松憲治	3,658
	八幡区 野面公民館	類似	北九州市八幡区野面字野面	蟹川貞雄	111
	戸畑区 三六公民館	公(分)	北九州市戸畑区小芝町1丁目	森定雄	2,518
直方市	新知町公民館	類	直方市新知町2丁目	中村正人	230
田川市	上伊田西地区公民館	類	田川市東区稲荷町	原田益雄	402
飯塚市	木の花町公民館	類	飯塚市大字菰田451番地の2	倉富武雄	314
八女市	平田町内公民館	類	八女市大字津江433番地	井上正己	138
筑後市	下妻町内公民館	類	筑後市大字下妻233番地の1	下川富吉	116
大川市	田口公民館兼木分館	公	大川市大字三丸643番地	石橋作	134
筑紫郡	春日町千歳分館	公	筑紫郡春日町千歳町2丁目	村田利行	640
宗像郡	福岡町南町分館	公	宗像郡福岡町南町	広渡勘三郎	182
嘉穂郡	嘉穂町足白公民館	公	嘉穂郡嘉穂町大字馬見584の4	徳田金重郎	260
朝倉郡	三輪町新町分館	公	朝倉郡三輪町新町167番地	後藤藤次郎	165
糸島郡	前原町末永部落公民館	類	糸島郡前原町末永	川久保豊次	94
浮羽郡	吉井町大村分館	公	浮羽郡吉井町大字清瀬393	石井近義	67
三潞郡	城島町檜津分館	公	三潞郡城島町大字檜津	今村利三郎	259
八女郡	広川町智徳分館	公	八女郡広川町大字広川2211	山下松次	98
田川郡	川崎町森安分館	公	田川郡川崎町森安	中野武義	545

委 員	北九州市門司区	青少年係長	山崎洋一
“	“	小倉区社会教育係長	瀬口義盈
“	“	“ 青少年係長	是則正夫
“	“	八幡区社会教育係長	須藤直哉
“	“	“ 青少年係長	塚田秀雄
“	“	若松区社会教育係長	柳本光保
“	“	“ 青少年係長	田中種昭

彰 推 せ ん 一 覧 表

坪 数		設 備 及 び 教 具 教 材									表 彰 の 主 な 理 由	
新築	転用	黒板	机	椅子	ラジオ	テレビ	テープレコーダ	アンブレラ放送器	図書	その他		
413m ²	—	3				1			500	1	都心部公民館の欠陥を克服生活の住民組織化を実現した。	
513.13m ²	—	4	100	300	2	1	1		1,000	1	町内公民館の模範、青少年問題にとり組む。	
	108m ²	2	12		1	1	—	1	120	囲碁将棋	農村都市近郊の新しい経営、青少年教育と家庭教育	
79.93坪	—	2	35	100	—	—	1	1	—	2	都市公民館の困難性を克服地域運動が盛ん	
50坪	—	1	30	30	1			プレーヤ1		1	子供会の育成、環境衛生に重点、調査に基づく事業の実施	
45坪	—	2	3	10	1	1		プレーヤ1	31	1	施設設備が優れ、学級活動、文化活動が盛ん	
52.5坪	—	2	16	5				プレーヤ1	250	1	子供会、クラブ活動が盛ん、環境衛生活動	
24.5坪	—	1	14	14	—	—	—	プレーヤ1		電話	1	結婚改善、料理研究グループ、若妻グループの活動が盛ん
37.39坪	—	1	16	53						数ヶ		運営が合理的な新生活運動、婦人子供会活動が盛ん
33.25坪	—	1	1	3					20			部落の民主化、成壮年の産業研究活動が活発
73坪	—	3	18	7	1		1	ステレオ1		オルガン1		地域住民の和合とグループの育成、施設の建設
80.16坪	—	3	2	22	1	1	1	1				結婚改善新生活運動に力を注ぎ、クラブ活動が盛ん
121.605坪		5	50	50	1	1			120			組織運営が優れ、農村の新しい生活の研究に取り組む
	52坪	1	6	5			1		500			子供会の育成活動、成人病対策に力を入れ運営が優れている。
22坪	—	1	2	1								同和教育講座を毎月実施、青少年教育に成果
44.625坪	—	1	3	12			1	プレーヤ1		幻灯機1		人的親睦が優れ事業計画が立派で実践が地についている。
	52坪	2	16	5	1			1	100			生活合理化による生産の増強と営農改善に成果
41.5坪	—	1	13	12	1			1	80			青少年育成生活改善、生産活動の促進
62坪	—	1	2	20			1					地域の民主化、各種団体の育成に成果

〃 〃 戸畑区社会教育係長 前 田 紀 道

〃 〃 〃 青少年係長 竹 内 利 雄

7. 大会事務局 事務局長（県公連事務局長） 鑑 水 速 太

同 次 長（ 〃 次 長） 高 松 三 綱

（企画係） 杉野友彦，赤司勝，入江寛，吉瀬純一（庶務係） 柴田広吉，重松重時，福山幸男，貝原芳子，竹若律子（視聴覚係） 入江寛，富島光臣（資料係） 吉瀬純一，測上雄幸，川崎隆夫（分科会係） 大和正巳

対 談 と 討 議

「新しい地域社会の建設と生活文化の向上発展に何が必要か」

＝講 師＝ 九 州 大 学 教 授 岩 片 磯 雄（農業経済）
北九州大学講師 神 崎 義 夫（都市診断）
日立金属戸畑工場次長 山 崎 久 雄（経営者）
戸畑区婦人協議会長 毛 利 昭 子（市民代表）
＝聞き手＝ 九 州 大 学 助 教 授 矢 野 峻（社会教育）

<メ モ>

パネル討議

分科会のまとめ

「新しい地域社会の建設と生活文化の向上発展に資するためには公民館はいかにあるべきか」

＝講師＝分科会助言者

＝司会＝若松区社会教育課長 和田喜代治

<メ モ>

全 体 討 議

- 「テーマ」
1. 勤労青少年の健全育成と教育文化的環境の構成をいかにしたらよいか。
 2. 教育文化センターにふさわしい公民館の施設，設備をいかに整備したらよいか。
 3. 公民館の事業を住民の生活に即したものにするため，社会教育職員の整備充実をいかにしたらよいか。

＝議長団＝ 北九州市戸畑区社会教育課長 日 野 保
県教育庁福岡出張所長 高 宮 清 志
行橋市社会教育課長 野 村 敏 晴

<メ モ>

特 別 講 演

「地域社会における生活文化の振興と公民館の役割」

講 師 群馬大学教授 永 杉 喜 輔

<メ モ>

第11回福岡県公民館大会分科会一覧表

分科会名	参加する人	司会者	助言者	運営担当者	記録者
第 1	団地市街地に在住する人	福岡市社会教育主事 原野家成	北九州大学助教授 小森哲郎 八幡区陣山公民館長 小野隆雄	小倉区社会教育主事 位地正行	橋市延永公民館主事 大友教慈 小倉区公民館主事 高橋善助
第 2	都市周辺及び近郊町村に在住する人	大川市社会教育主事 木下正美	九州大学社会教育研究室 諸岡和房 県社会教育主事 大和正己	小倉区社会教育係長 瀬口義盈	筑後市中央公民館主事 高橋安男 小倉区公民館主事 延吉昭安
第 3	産炭地市町村に在住する人	大牟田市社会教育課主事 斉田郷一郎	九州大学助教授 矢野峻 県社会教育主事 柴広吉	若松区社会教育係長 柳本光保	嘉穂郡庄内町公民館主事 松岡芳信 若松区社会教育課 渡辺喜一郎
第 4	農山漁町村に在住する人	宗像郡津屋崎町社会教育主事 花田作生	久留米大学講師 門田見昌明 県社会教育主事 赤司勝	若松区青少年係長 田中種昭	浮羽郡吉井町公民館主事 斉田和弘 若松区社会教育課 清末昭男
第 5	団地や市街地に在住する人	門司区社会教育主事 川上竜馬	県社会教育課長 鏑水速太 八幡区社教係長 須藤直哉 戸畑区社教係長 前田紀道	門司区社会教育課 土肥妙子	福岡市 八幡区社会教育課 江口祐一
第 6	都市周辺及び近郊町村に在住する人	甘木市社会教育主事 坂井金次	県社教課主事 川隆夫 県社会教育主事 杉野友彦 北九州市社会教育主事 井上禎久 県社会教育課係長 入江寛	門司区社会教育係長 村上仁雄	粕屋郡粕屋町公民館主事 明永智堂 八幡区社会教育課 大熊正就
第 7	産炭地市町村に在住する人	田川市中央公民館長 荒川夏彦	九州大学社会教育研究室 岩永久次 県社会教育主事 川原黎治	八幡区穴生公民館長 古庄幸臣	直方市中央公民館主事 武末新徳 八幡区尾倉公民館 馬郡高一
第 8	農山漁町村に在住する人	築上郡吉富町公民館長 瀬口勇	九州大学教授 岩片磯雄 県社会教育主事 吉瀬純一	八幡区木屋ノ瀬公民館長 北村佳之	八女郡上陽町公民館主事 小川敏弘 八幡区社会教育課 仙頭和也

分科会名	参加する人	発 者 表
第 1	団地市街地に在 住する人	門司区萩ヶ丘公民館長 波 多 江 俊 雄 福岡市箱崎公民館 貝 塚 団 地
第 2	都市周辺及び近 郊町村に在住す る人	若松区島郷島田分館長 楠 博 門 筑紫郡春日町千歳分館長 村 田 利 行
第 3	産炭地市町村に 在住する人	山川郡糸田町真岡分館長 藤 浦 一 十 山川市会社町公民館主事 大 月 弘
第 4	農山漁町村に在 住する人	糸島郡前原町末永公民館 中 村 半 浮羽郡浮羽町檜ヶ平分館 伊 藤 集

分科会名	参加する人	発 表 者
第 5	団地や市街地に 在住する人	八幡区陣山公民館 啓 原 啓 戸畑区鞘ヶ谷公民館 啓 局 丹 次 郎 久留米市国分公民館主事 山 田 和 作
第 6	都市周辺及び近 郊町村に在住す る人	小倉区東谷公民館長 宮 崎 上 筑紫郡大野町公民館主事 白 壁 和 弘
第 7	産炭地市町村に 在住する人	直方市文化連合会 上 劔 忠 嘉穂郡碓井町公民館主事 野 見 山 友 司
第 8	農山漁町村に在 住する人	築上郡吉富町公民館 是 木 光 朝倉郡杷木町公民館 井 手 流 次 郎

視 聴 覚 教 材 専 門 店



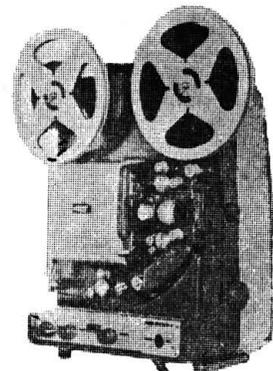
カメラのドット

博多店（奥ノ堂電停）・西鉄名店街店

カメラのドット・小倉店

魚町4丁目かねやすビル（北方線側）

▶ 九州特約 ◀ マスターライトスコープ
8ミリエルモTP-8サンド 16ミリボレック撮影機
16ミリエルモ映写機
マスタースライド



映画フィルム貸出のご案内

福岡県貯蓄推進委員会

福岡県貯蓄推進委員会(事務局—日本銀行)では県民のみなさんに生活改善と貯蓄との深いつながりを知っていただくため、面白い劇映画や生産、消費の合理化を扱った記録映画(16ミリ版)、学習用スライドなどを準備して公民館、婦人会、青年団、子供会などの各種集会に無料でお貸しいたしておりますからご利用願います。

貸出ご希望の向は下記へお問合せ下さい。

福岡市橋口町23番地

日本銀行福岡支店

電話 福岡 ⑦ 2031

北九州市門司区本町5番地

日本銀行北九州支店

電話 北九州 ③ 3581

主な映画とスライド

三等賞の子山羊	劇	41分
小さな町の小さな物語	劇	39分
素晴らしき旧婚旅行	劇	30分
限りなき友情	劇	57分
現代家族	劇	48分
青年の虹	劇	59分
和代の願い	劇	50分
石ころの歌	劇	62分
とよさんの家計簿	劇	31分
愛妻田物語	記録(カラー)	33分
西ドイツの村づくり	記録(カラー)	28分
ヨーロッパの暮らし	記録(カラー)	45分
考える農業	経済解説	32分
家計簿のつけ方(1~5巻)	スライド	363駒

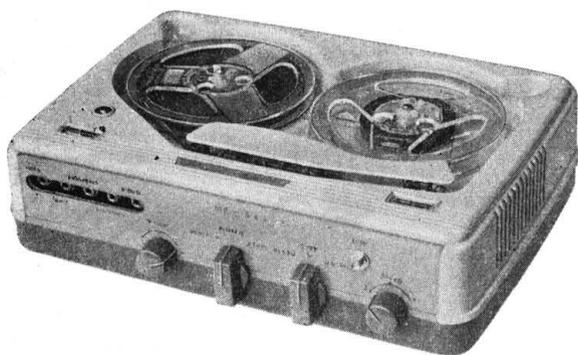
(この他にも多数用意してあります)

—空地に花を、家に貯蓄の芽を育てましょう—

特許製品

メモフオンポータブル・テープレコーダー

世界で初めてのポータブル・テープレコーダー
皆様方の永年の夢をかなえてくれる画期的な内容

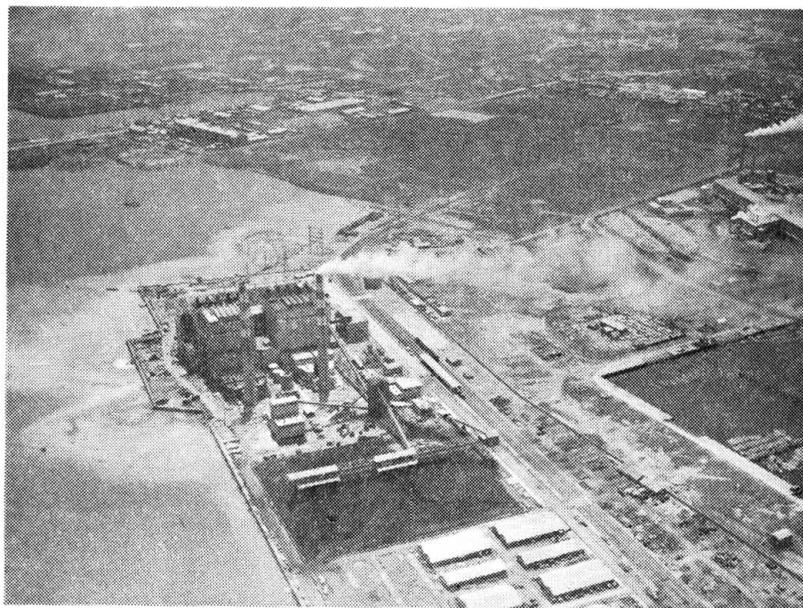


交流電源（電灯線）いりません……携帯用に
5吋リールがかけられます……業務用に
視聴覚教育に最適です……教育用に
大きな音で聞けます……宣伝用に
スピードが自由に変えられます
……トーカー化に
 どの他のセットともテープは自由に交換
できます。

MF-531-P型 ¥ 29,800
MF-531-H型 (ボックス込)
¥ 34,700

原事務機株式会社

福岡市上名島町16番地
電話 ㊦ 0038番(代)



九州電力株式会社

火の国九州 バスの旅

ベスト 5 ファイブ



▷……九州が誇る自然美・温泉・数々の国立・国定公園にかけられた、5つのすばらしいバスのかけはし……

▷……火の国九州のゆたかな旅情を、最新の西鉄貸切バスで心ゆくまでお楽しみください。

西鉄推せん貸切コース

- **レインボーライン 3泊4日**
博多—西海—雲仙—阿蘇—別府 普通貸切 71,900円
- **ゴールデンライン 2泊3日**
博多—長崎—雲仙 阿蘇—別府 普通貸切 63,510円
- **デラックスライン 7泊8日**
博多—西海—雲仙 指宿—霧島 日南—阿蘇—別府
普通貸切144,590円
- **シルバーライン 6泊7日**
博多—長崎—雲仙 指宿 霧島—日南—阿蘇—別府
普通貸切136,200円
- **サウザンライン 5泊6日**
博多—指宿—霧島 日南—阿蘇—別府
普通貸切117,100円

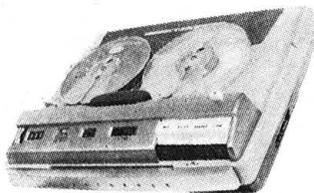


▶お申込・お問合せは◀

全国主要旅行斡旋各会社及び
西鉄本社自動車営業課
TEL 福岡 ④ 1631. 5031
西鉄福岡営業部自動車運輸課
TEL 福岡 ⑥ 2337

———日本の生んだ世界のマーク———

SONY テープコーダー



TC-801 ¥ 55,000

○ オール・プッシュボタン

- 簡単な操作……
- 完全なメカニズム……
- 幅広い音域……

○ ポータブル

- 筆記がわりに……
- 取材に……
- 声のメモに……



TC-272 ¥ 39,000

ソニー商事株式会社福岡支店

福岡市鍛冶町18番地 TEL ④ 2761

祝

第 11 回

福岡県公民館大会

会 員 商 社

日北東奥教九映Fエ近鹿	本辰州機ル藤児島	光商共工モ電	芸事映会配同業D社気	16大電富大ニ古近新熊	ミ沢写教育視シ川江響	リ映真画セ心タラ器	画商機材商器	社会社店一社事店社
-------------	----------	--------	------------	-------------	------------	-----------	--------	-----------

九州視聴覚教育事業者連合会



お土産に・贈りものに

九州の
銘菓

ひよ子

福岡市新天町入口
福岡市西新町商店街
飯塚市本町
小倉駅ビルデパート

電話(74)7227.7300
渡辺通一丁目
電話45.145.745
電話(53)0088

ひよ子本舗
吉野堂